

四街道市 認知・イメージ等に関する調査結果

令和2年2月

経営企画部 シティセールス推進課



調査概要

- 調査目的:

四街道市への転入促進に影響を与えると思われる、四街道市や近隣市町の認知やイメージの現況を把握すること

- 調査期間:

令和元年8月1日～8月31日

- 調査手法:

ウェブサイトによるアンケート調査

- 調査対象:

調査パネルに基づいた、調査対象エリアに居住する20歳～49歳、未婚／既婚、男性／女性

- 調査エリア:

千葉県内7市(千葉市、市原市、習志野市、船橋市、佐倉市、八千代市、市川市)

東京都内7区(千代田区、中央区、港区、台東区、江東区、江戸川区、文京区)

- 回答数:

1,440(千葉県、東京都、各720)

サマリー

■ 四街道の認知率

- 四街道市の認知率(助成想起率—市名を見せて知っている人の比率)は、千葉、東京合わせて67.2%と前回調査(2016年)と比べ3.0%上昇した。千葉県内では85.1%と6.5%の上昇となった。東京都内では49.2%とほぼ前回並みの水準である。
- 純粋想起率(何の情報提示もなく四街道市を思い出せる人の比率)は、4.0%。千葉県内で5.3%、東京都内で2.8%であり、「訊かれれば知っているが、思い出しにくい」市という位置にある。前回調査結果(全体3.8%、千葉県5.3%、東京2.2%)とほぼ同水準である。

■ 四街道市のイメージ

- 「自然が豊かそう」と、四街道市をイメージしている人がもっとも多いが(58.2%、前回56.9%)、「住みやすそう」(16.5%、前回16.0%)、「子育てによさそう」(11.7%、前回14.2%)というイメージは低く、前回調査時と大きな差異はない。
- 千葉市、市川市、船橋市については、「都会的」で「住みやすそう」で「活気がありそう」というイメージが強い。一方で、四街道市を含む、成田市、市原市、八街市、佐倉市、八千代市等は、「自然が豊かそう」というイメージのみ突出しており、大別すると二つのイメージグループに分類されている。

■ 四街道市についての理解

- 四街道市の理解度については、「緑が多く自然に恵まれている」と約34%の人が認識しているが、「子育て支援や教育環境づくりに力を入れている」は7.3%、「知っていることはない」が37.8%と、理解度に課題が残る。

■ 四街道市との交流経験

- 四街道市に住んだことがあるか、行ったことがある人は、四街道市を知っている人のうち56.5%(前回57.7%)。千葉県民では、63.0%(前回65.2%)であり、ほぼ横ばいである。
- 特に、千葉県居住者のうち25歳～39歳既婚男性の交流経験は75.6%と際立って高い。

サマリー

■ 四街道市への居留意向

- 四街道市への居留意向は、17.5%（前回12.8%、7段階評価、非常に住んでみたい＋住んでみたい＋やや住んでみたい合計値）と5%程度上昇した。
- また、千葉県の25歳～39歳既婚男性では、約19%の上昇となった。
- 船橋市（49.9%）、千葉市（43.1%）、市川市（43.0%）、習志野市（35.8%）の4市の居留意向率が突出している状況は継続している。

■ 四街道市の魅力

- 四街道市の特長説明文提示では「0歳児から中学校3年生までの子どもの医療費無料」が最も魅力的であると映っており、50%弱の人がそのように回答している。特に千葉県の25歳～39歳既婚女性の75%が「医療費無料」に魅力を感じている（前回調査とほぼ横ばい）。
- また、調査項目として新たに加えた「待機児童ゼロ」「住宅価格の安さ」についても評価が高い結果となった。特に千葉県居住の25歳～39歳既婚女性において「子どもルーム」「普通教室エアコン完備」も含め、高い評価となった。

■ 居住する街に対する愛着度

- 好意指数では、東京居住者に比べ、千葉県居住者の居住地域に対する好意度が若干高い。男女比較では、街に対する女性の好意度が男性に比べて高い。
- 居住する街について他人への推奨意欲指数では、千葉県民、東京都民とも大きな差はない。
- 住んでいる街の出来事（イベントなど）への参加意欲指数では、千葉県民よりも東京都民の方が高い結果となった。特に東京都男性が相対的に高い。
- 感謝指数では、千葉県男性の地元住民への感謝度が低く、東京都男性の感謝指数が高い。
- 四街道市では、市への好意、市の推奨意欲、市活動への参加意欲、住民への感謝の気持ちとも非常に高い。

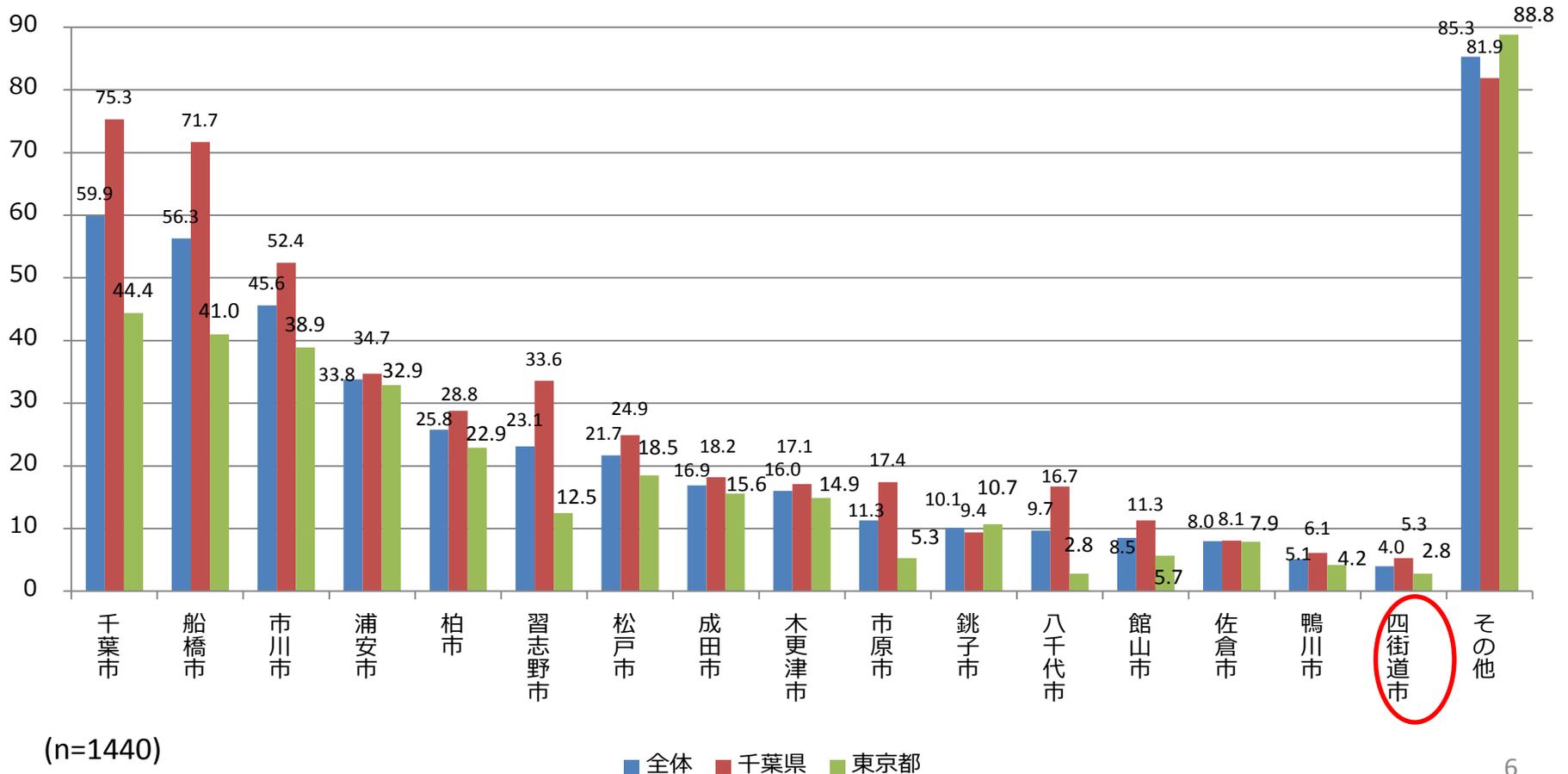
調査結果詳細

市町名の認知率(純粹想起)

千葉県内の市町名で、情報提示なく四街道市を思い出せる人は、全体の4.0%で17番目。
千葉県民で5.3%、東京都民では4.2%と、想起されにくい。

千葉市(59.9%)、船橋市(56.3%)、市川市(45.5%)、浦安市(33.8%)、柏市(25.8%)の順。
千葉県民においては、千葉市(75.3%)、船橋市(71.7%)が突出し、市川市(52.4%)が続く。

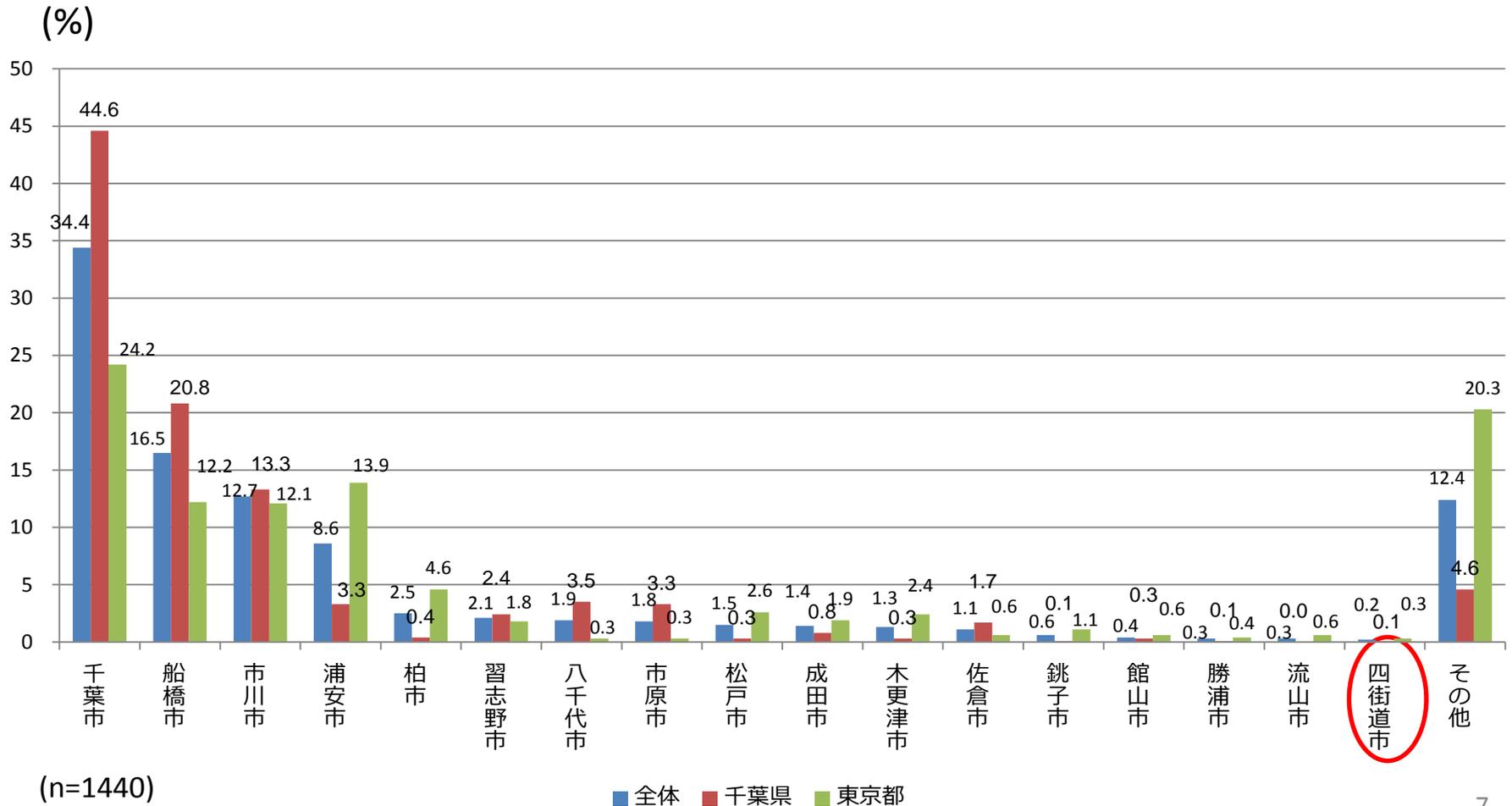
(%)



(n=1440)

市町名の認知率(第一純粹想起)

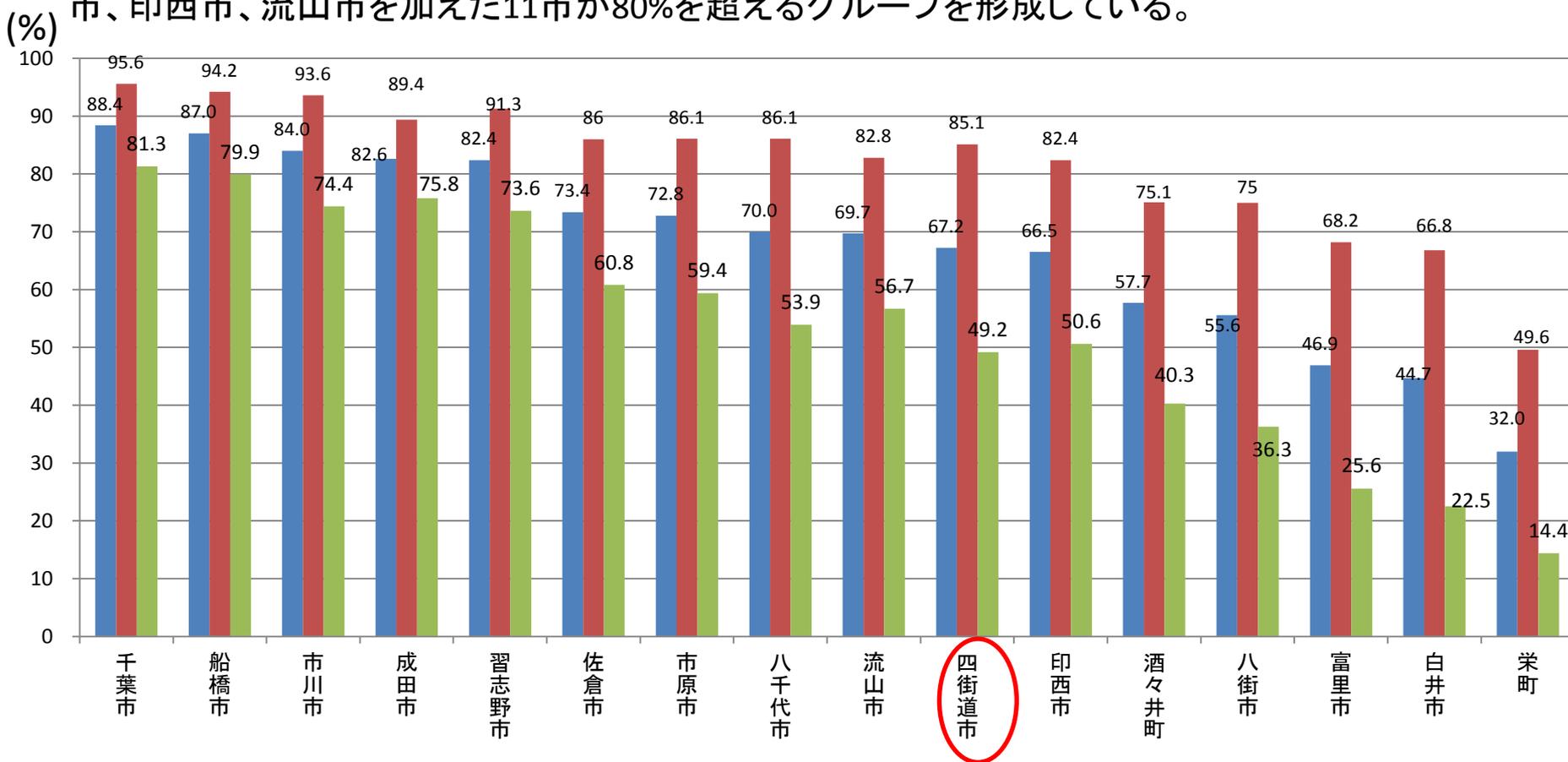
千葉県内の市町名で、情報提示なく四街道市を最初に思い出した人は、0.2%(1440人中3人)。上位から千葉市(34.4%)、船橋市(16.5%)、市川市(12.7%)、浦安市(8.6%)、柏市(2.5%)の順。千葉県民においては上位3市、東京都民においては浦安市を含めた上位4市が突出している。



市町名の認知率(助成想起)

四街道市の認知率(市名を提示しての認知率=助成想起率)は、67.2%。千葉県民では85.1%、東京都民は49.2%と、千葉県内では高水準となった。

全体では、千葉市(88.4%)、船橋市(87.0%)、市川市(84.0%)、成田市(82.6%)、習志野市(82.4%)、佐倉市(73.4%)、市原市(72.8%)の順で認知が高い。千葉県民では、それらに八千代市、四街道市、印西市、流山市を加えた11市が80%を超えるグループを形成している。

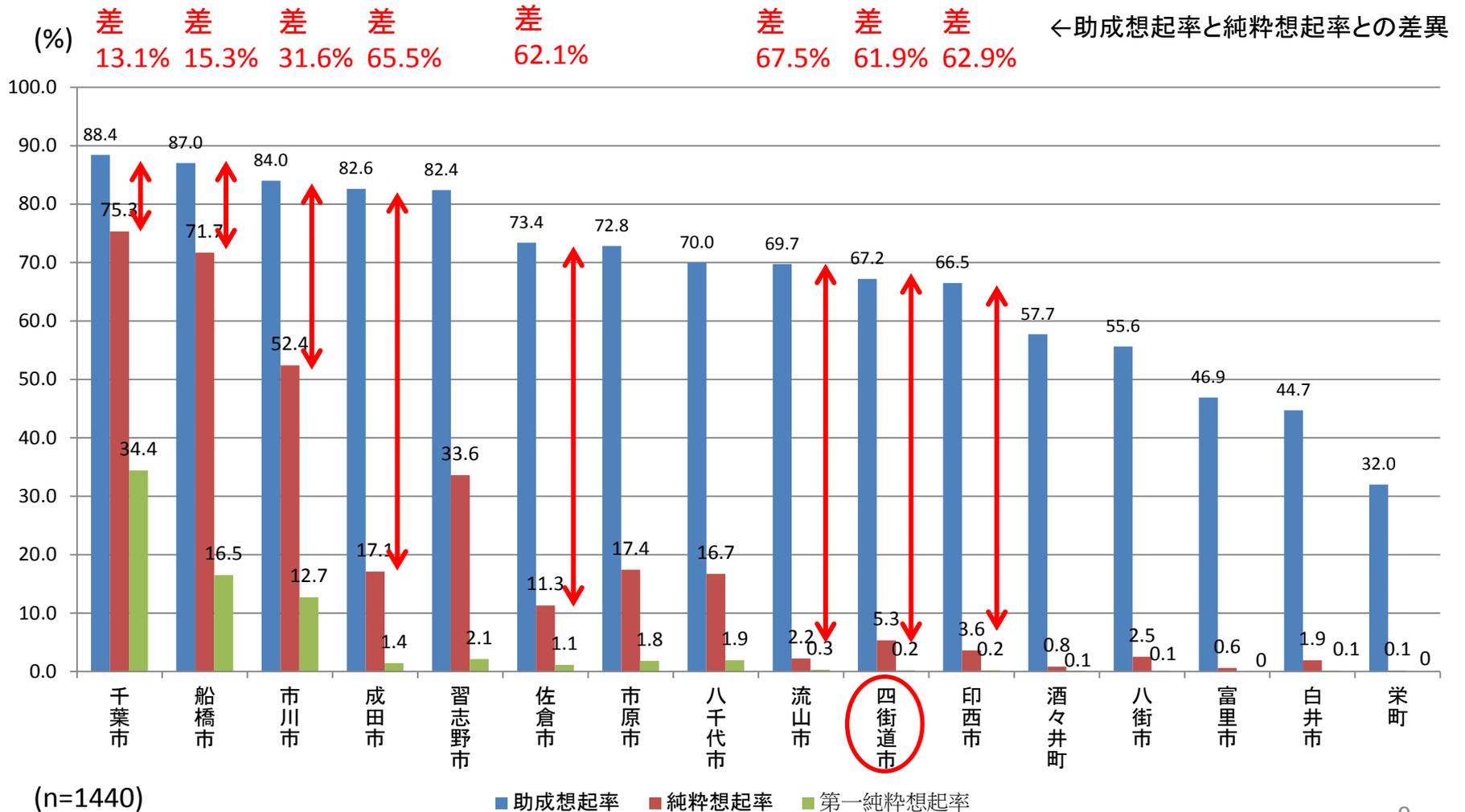


(n=1440)

■ 全体 ■ 千葉県 ■ 東京都

市町名の認知率(助成想起、純粹想起、第一純粹想起比較)

四街道市は、助成想起では67.2%と一定の認知はあるものの、純粹想起では低想起率であり、ギャップが大きい(61.9%)。「訊かれれば知っているが、情報提示がなければ思い出しにくい」という状況は継続している。



市町名の認知率(前回調査との比較)

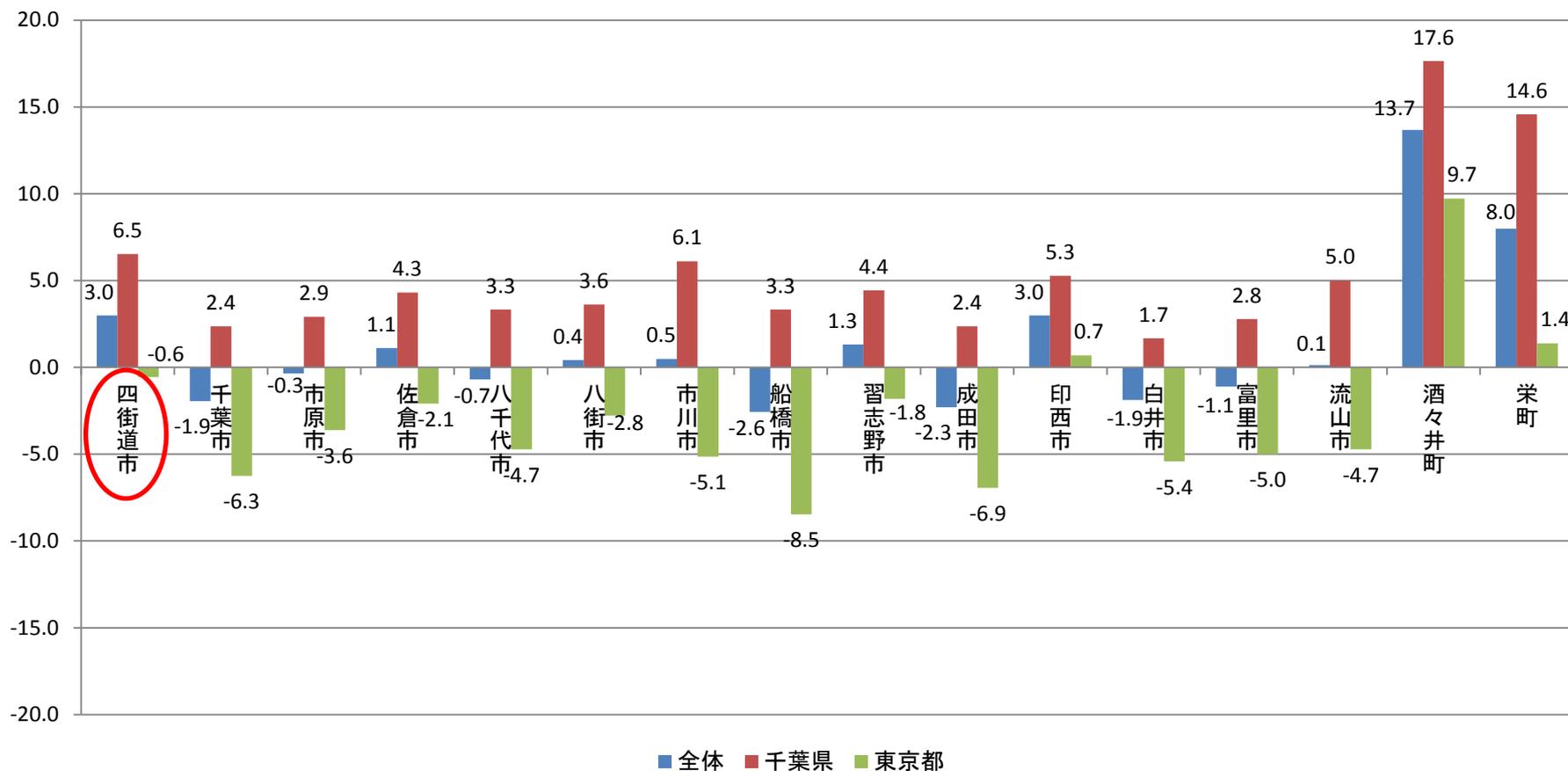
前回調査(2016年)と今回調査(2019年)の比較において、プラスに転じたものをピンク色で、マイナスに転じたものを水色で示した。

		(%)															
		四街道市	千葉市	船橋市	市川市	成田市	習志野市	佐倉市	市原市	八千代市	流山市	印西市	酒々井町	八街市	富里市	白井市	栄町
助成想起	2016	64.2	90.3	89.6	83.5	84.9	81.1	72.3	73.1	70.7	69.6	63.5	44.0	55.2	48.0	46.5	24.0
	2019	67.2	88.4	87.0	84.0	82.6	82.4	73.4	72.8	70.0	69.7	66.5	57.7	55.6	46.9	44.7	32.0
	増減	3.0	△ 1.9	△ 2.6	0.5	△ 2.3	1.3	1.1	△ 0.3	△ 0.7	0.1	3.0	13.7	0.4	△ 1.1	△ 1.8	8.0
純粹想起	2016	3.8	61.9	60.1	45.8	17.7	25.2	8.9	13.2	10.3	4.0	3.1	0.6	2.9	0.2	1.3	0.2
	2019	5.3	75.3	71.7	52.4	17.1	33.6	11.3	17.4	16.7	2.2	3.6	0.8	2.5	0.6	1.9	0.1
	増減	1.5	13.4	11.6	6.6	△ 0.6	8.4	2.4	4.2	6.4	△ 1.8	0.5	0.2	△ 0.4	0.4	0.6	△ 0.1
第一純粹想起	2016	0.2	31.3	19.9	11.9	1.5	2.7	1.8	1.7	1.7	0.4	0.2	0.1	0.4	0.0	0.1	0.0
	2019	0.2	34.4	16.5	12.7	1.4	2.1	1.1	1.8	1.9	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0
	増減	0.0	3.1	△ 3.4	0.8	△ 0.1	△ 0.6	△ 0.7	0.1	0.2	△ 0.1	0.0	0.0	△ 0.3	0.0	0.0	0.0

市町名の認知率(前回調査との比較 助成想起)

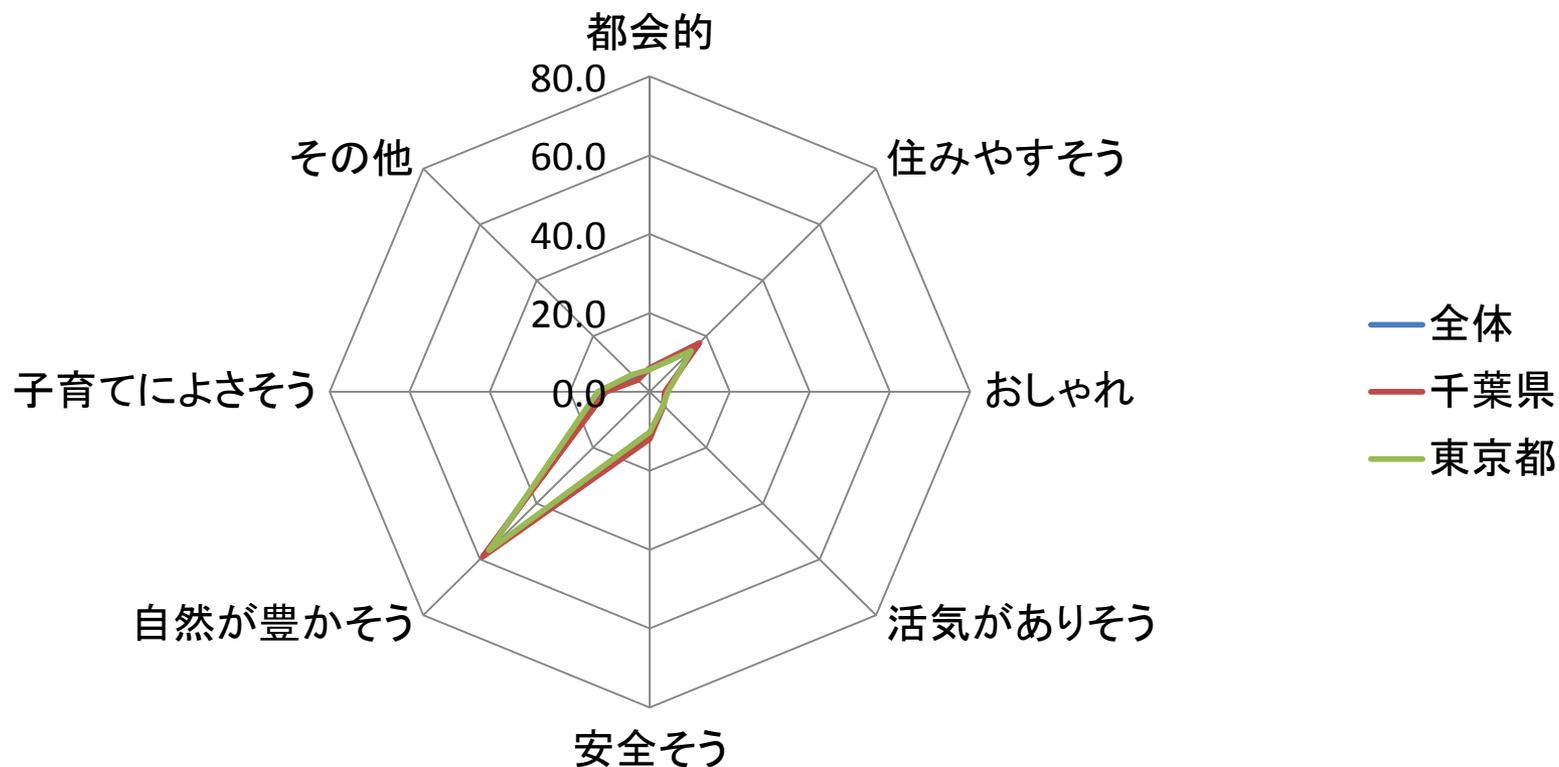
四街道市の認知率(市名を提示しての認知率=助成想起率)は、前回調査と比べ、千葉県内では6.5%と高い上昇となった。同じく千葉県内では、市川市(6.1%)、印西市(5.3%)、流山市(5.0%)などが順当に認知を伸ばすなか、酒々井町(17.6%)、栄町(14.6%)の2町が大きな伸長となった。アウトレットモールや東京からの鉄道直通化などの影響によるものと推察できる。

(%)



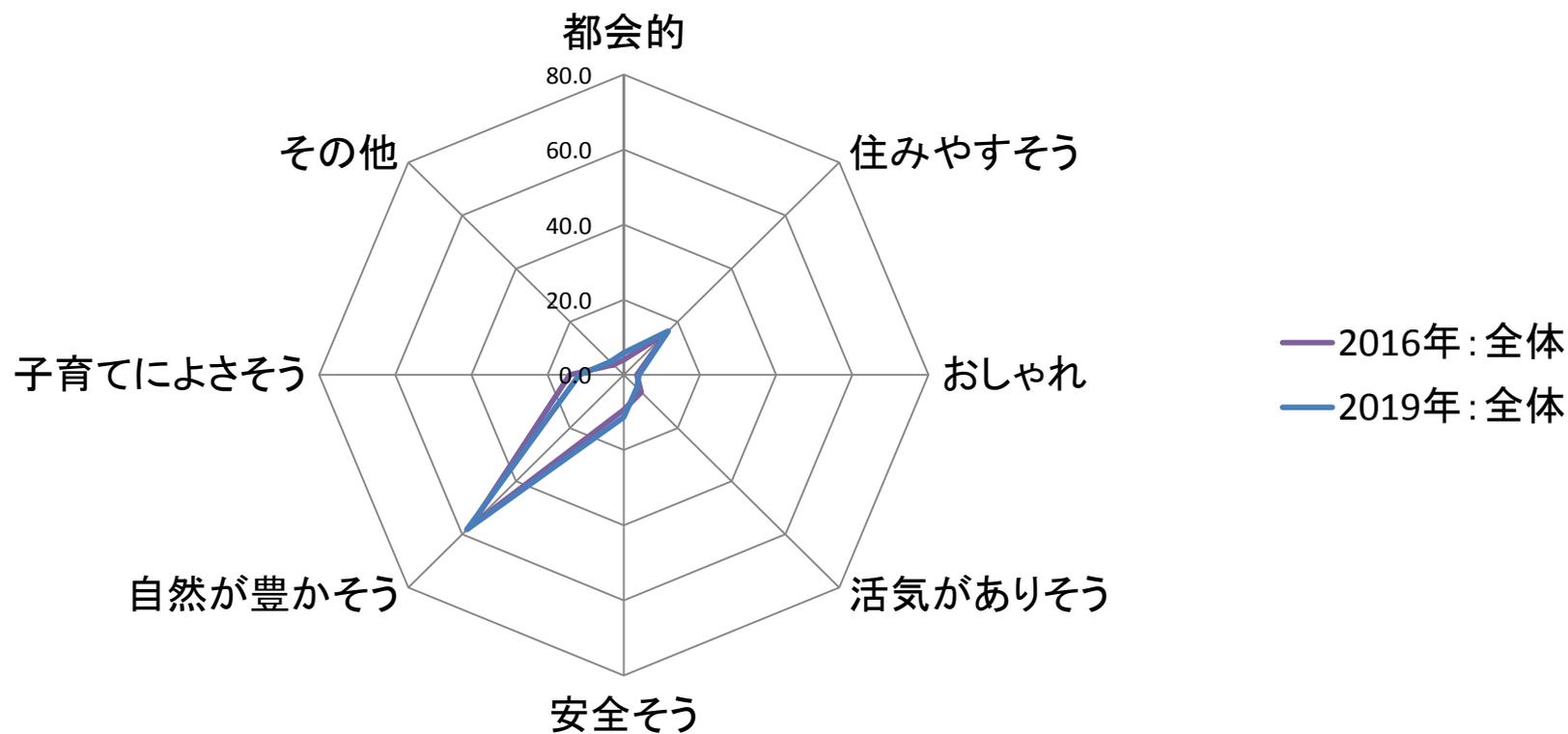
市のイメージ(四街道市)

四街道市のイメージは「自然が豊かそう」が58.2%である一方、「子育てによさそう」(11.7%)、「住みやすそう」(16.5%)%となっており、「自然」のイメージはあるものの、「子育て」を含めた他のイメージは総じて低い。この傾向は、千葉県民、東京都民とも大きな違いはない。



市のイメージ(四街道市 前回調査との比較)

四街道市のイメージは前回調査とほぼ同様の傾向であり、大きな変動はない。

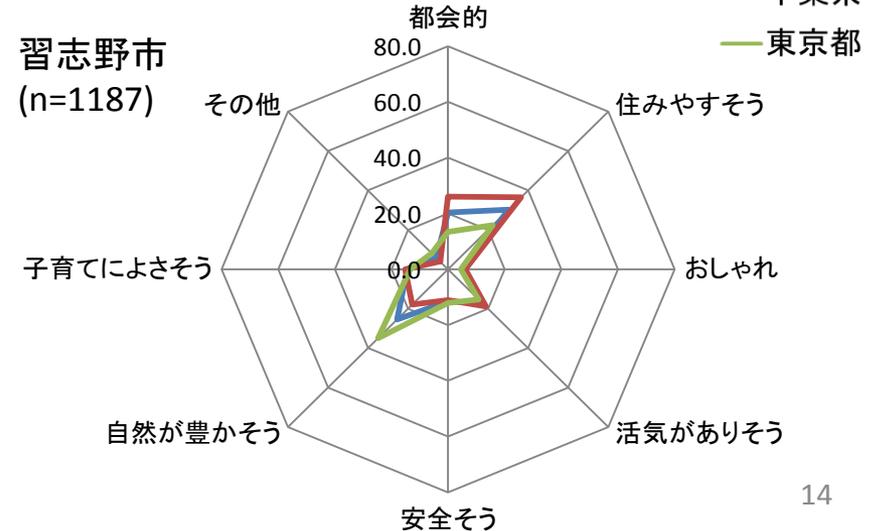
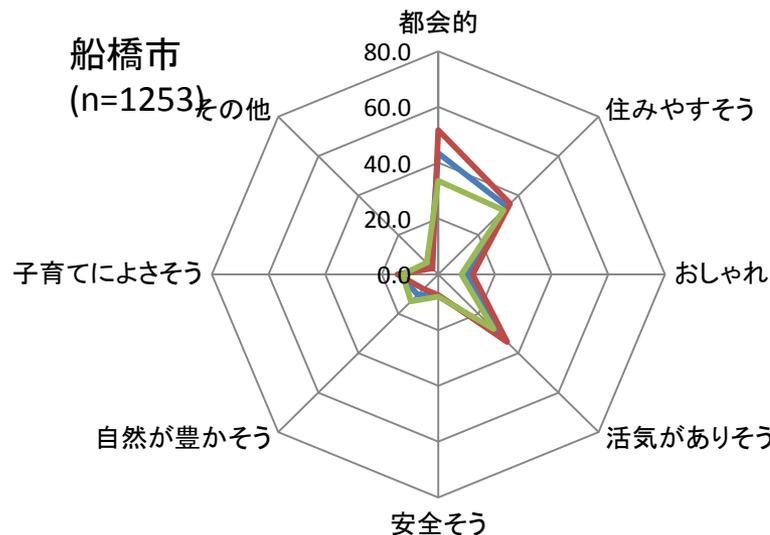
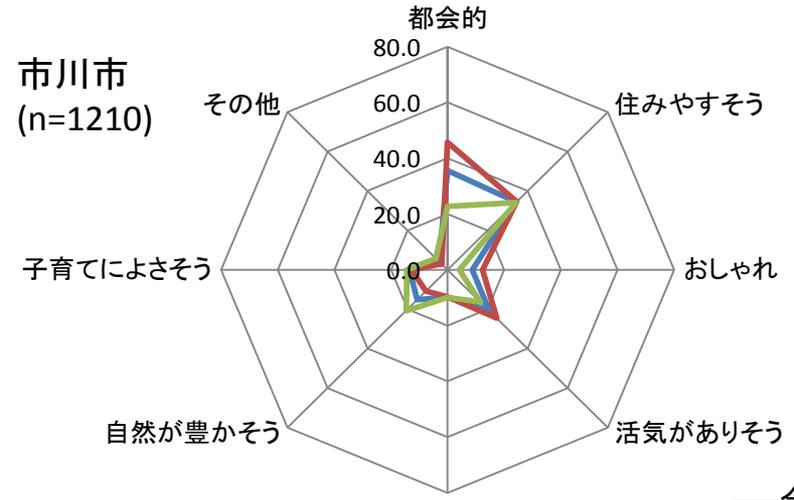
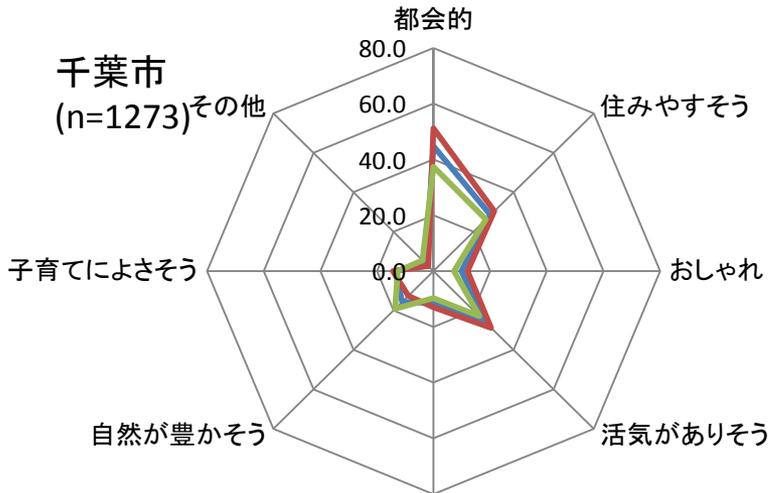


(2016: n=924)

(2019: n=967)

市のイメージ(千葉県内各市町)

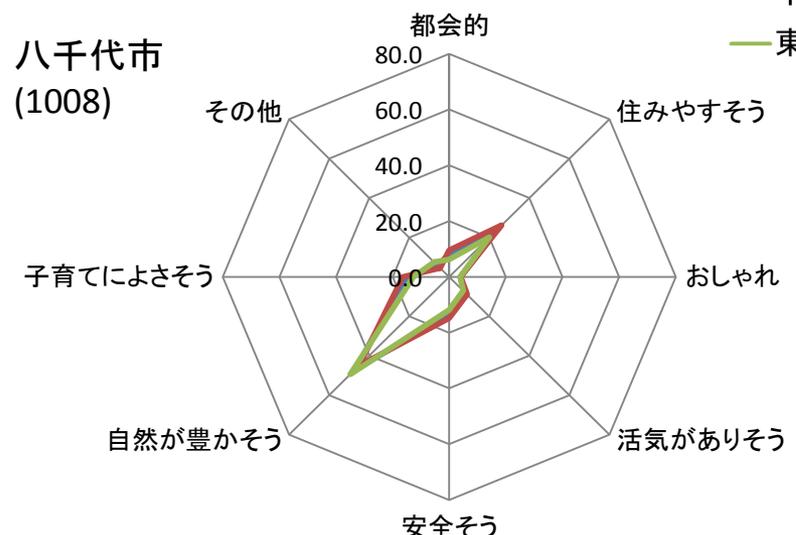
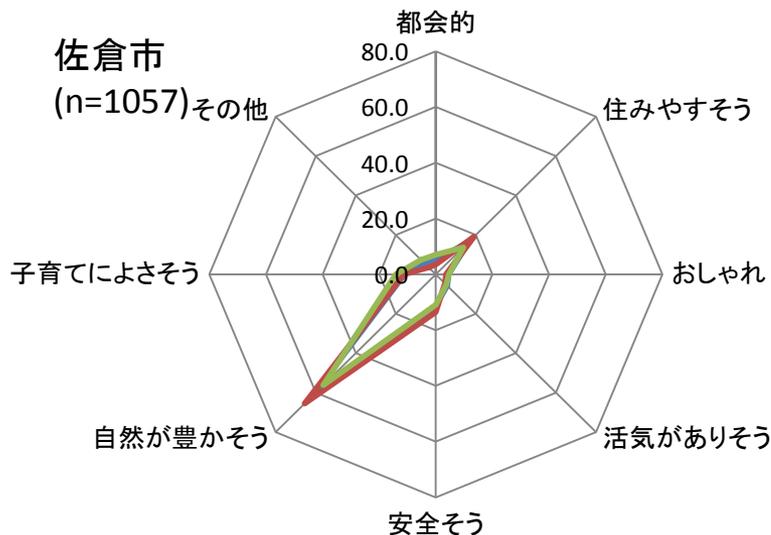
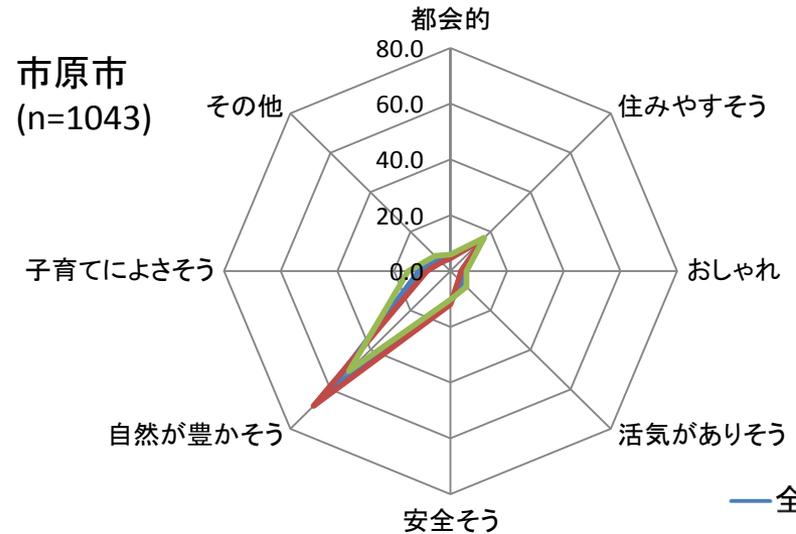
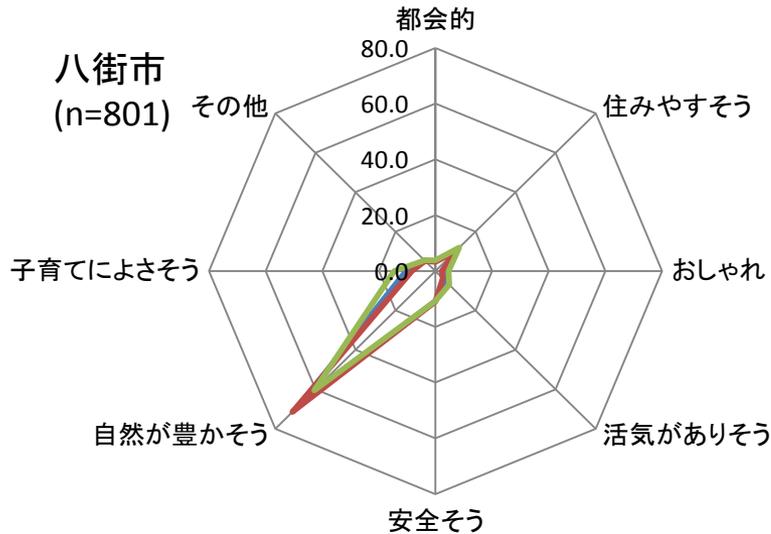
各市のイメージを大別すると、「都会的」「住みやすそう」の2項目が相対的に高いグループ(千葉市、船橋市、市川市等が代表的)と「自然が豊かそう」が相対的に高いグループ(四街道市、市原市、白井市、富里市等が代表的)に二分される。特に千葉県民は、千葉市、船橋市、市川市3市を「都会的」で「住みやすそう」だというイメージを持っていることがわかる。



— 全体
— 千葉県
— 東京都

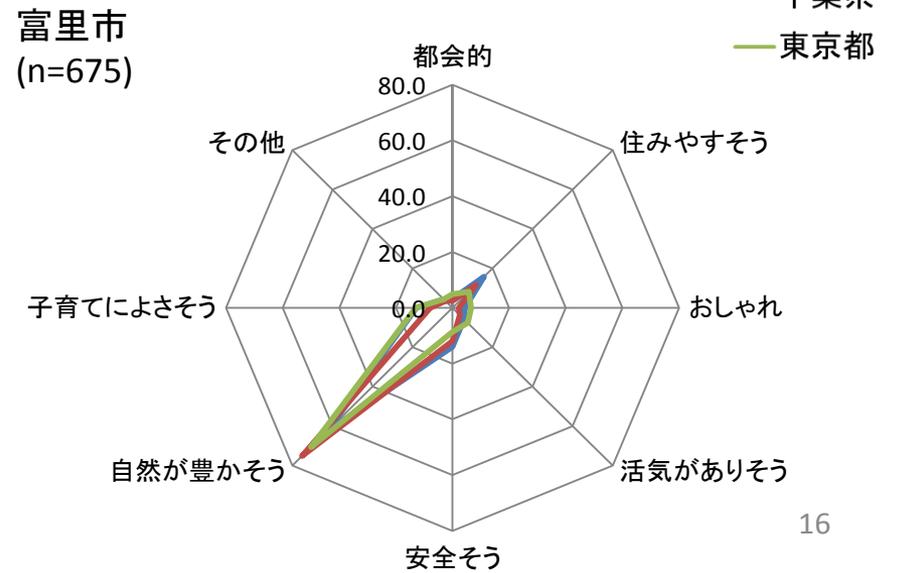
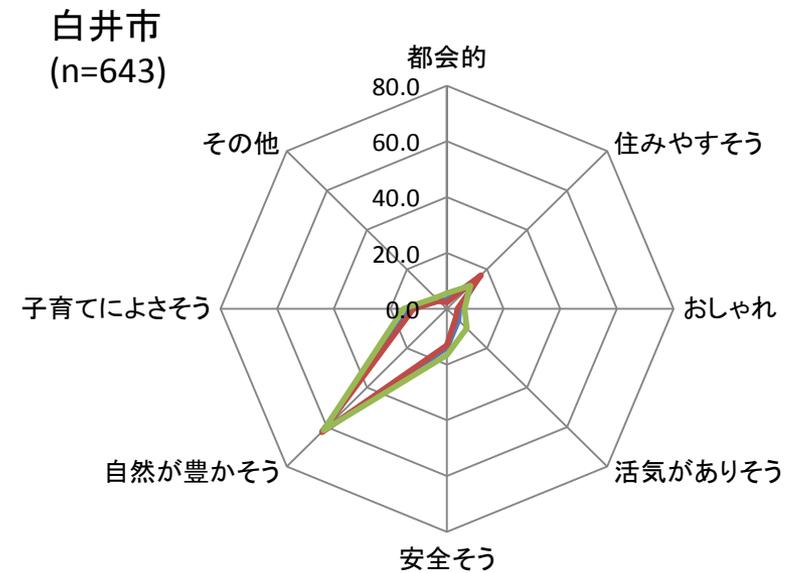
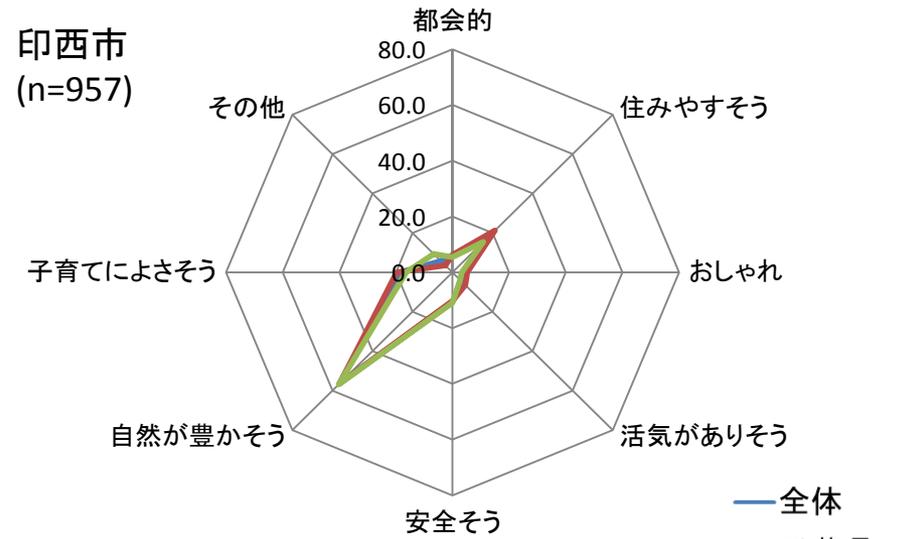
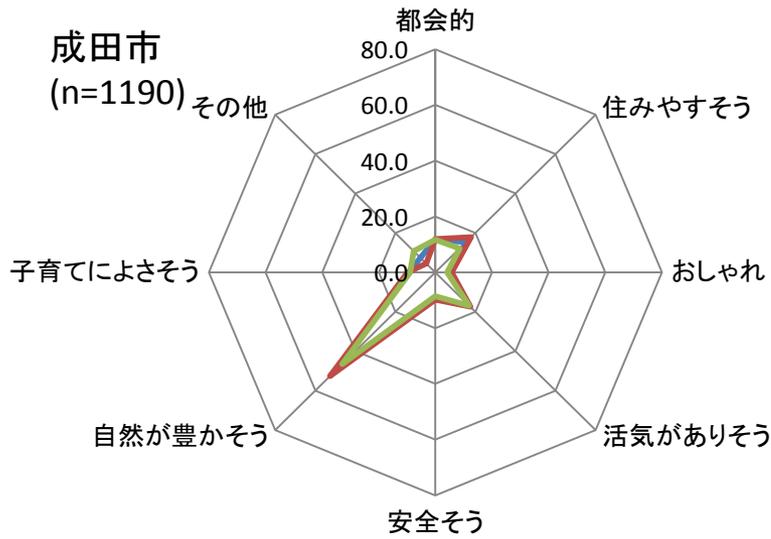
市のイメージ(千葉県内各市町)

一方で、「自然が豊かそう」というイメージを持たれているグループ(四街道市、市原市、白井市、富里市等)は、総じてイメージ構成に大きな差異がなく、「自然」以外の各イメージ項目の値が低く、明確なイメージが持たれていない様子が伺える。



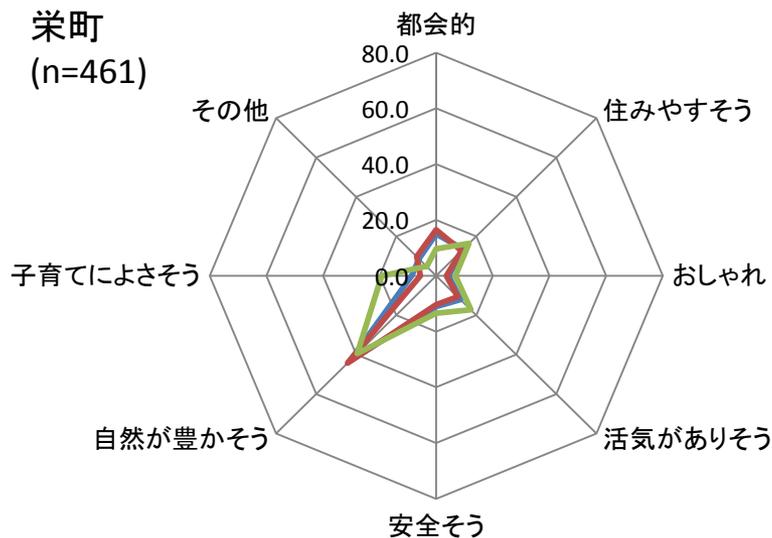
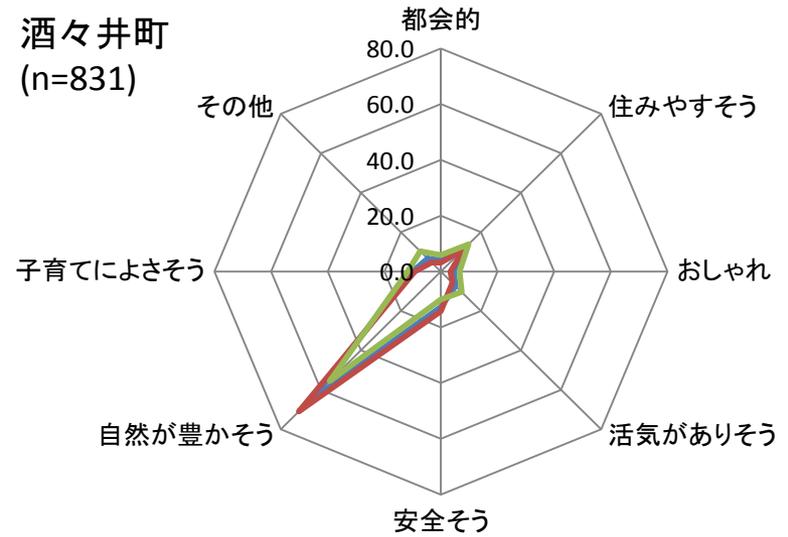
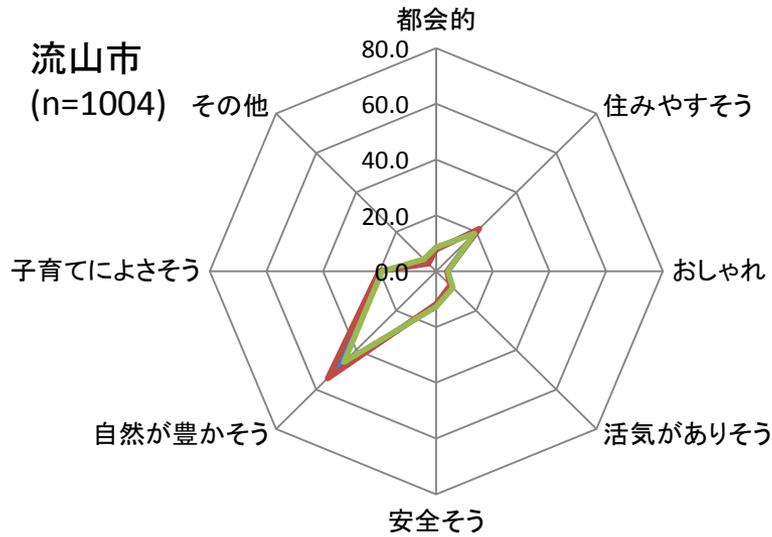
— 全体
— 千葉県
— 東京都

市のイメージ(千葉県内各市町)



— 全体
— 千葉県
— 東京都

市のイメージ(千葉県内各市町)

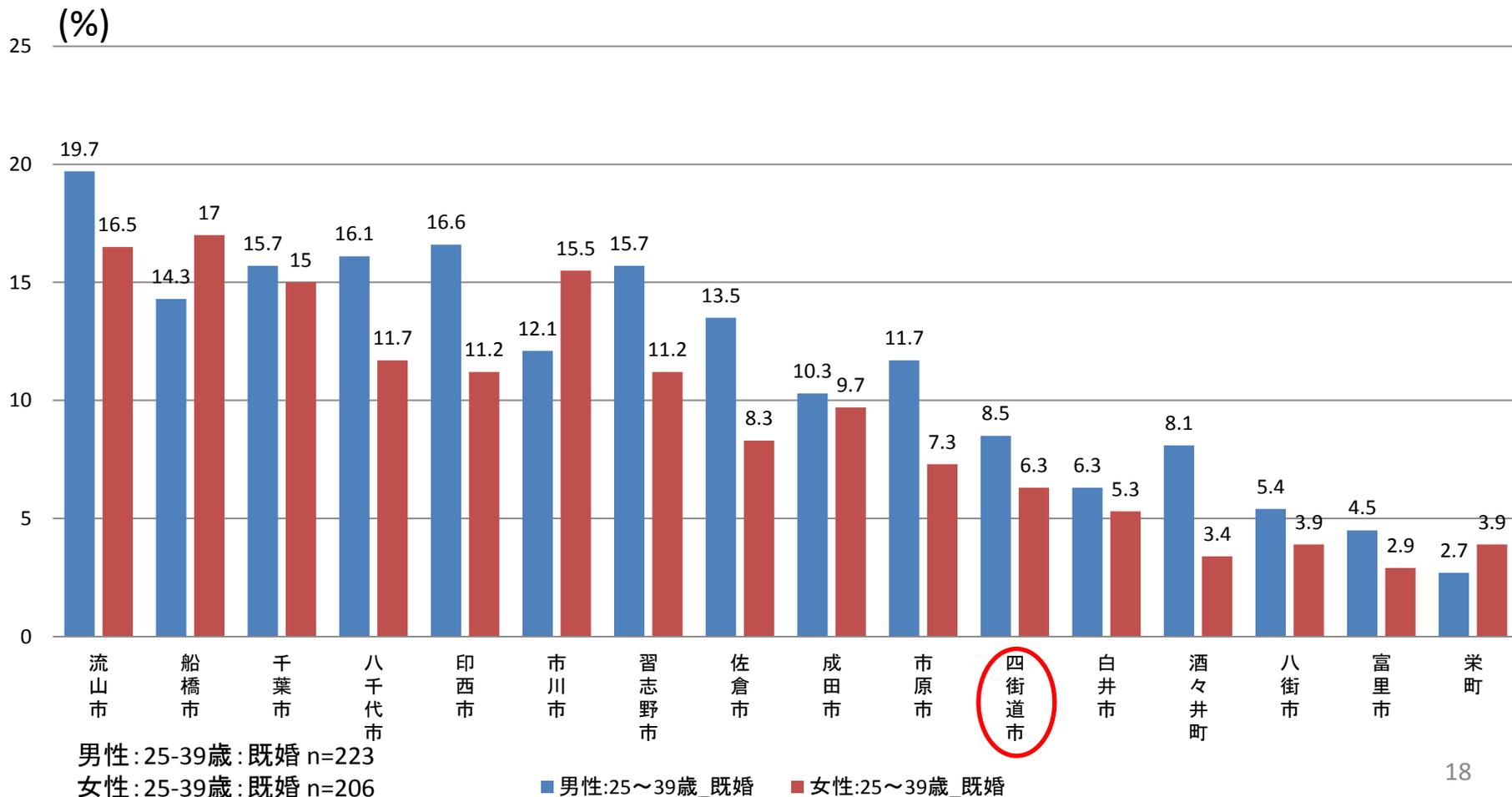


- 全体
- 千葉県
- 東京都

「子育てによさそう」な市町イメージの比較

25歳～39歳の女性において「子育てによさそう」と感じられている上位市町は船橋市(17.0%)、流山市(16.5%)、市川市(15.5%)、千葉市(15.0%)、八千代市(11.7%)、印西市(11.2%)だが、総じて高くはない。

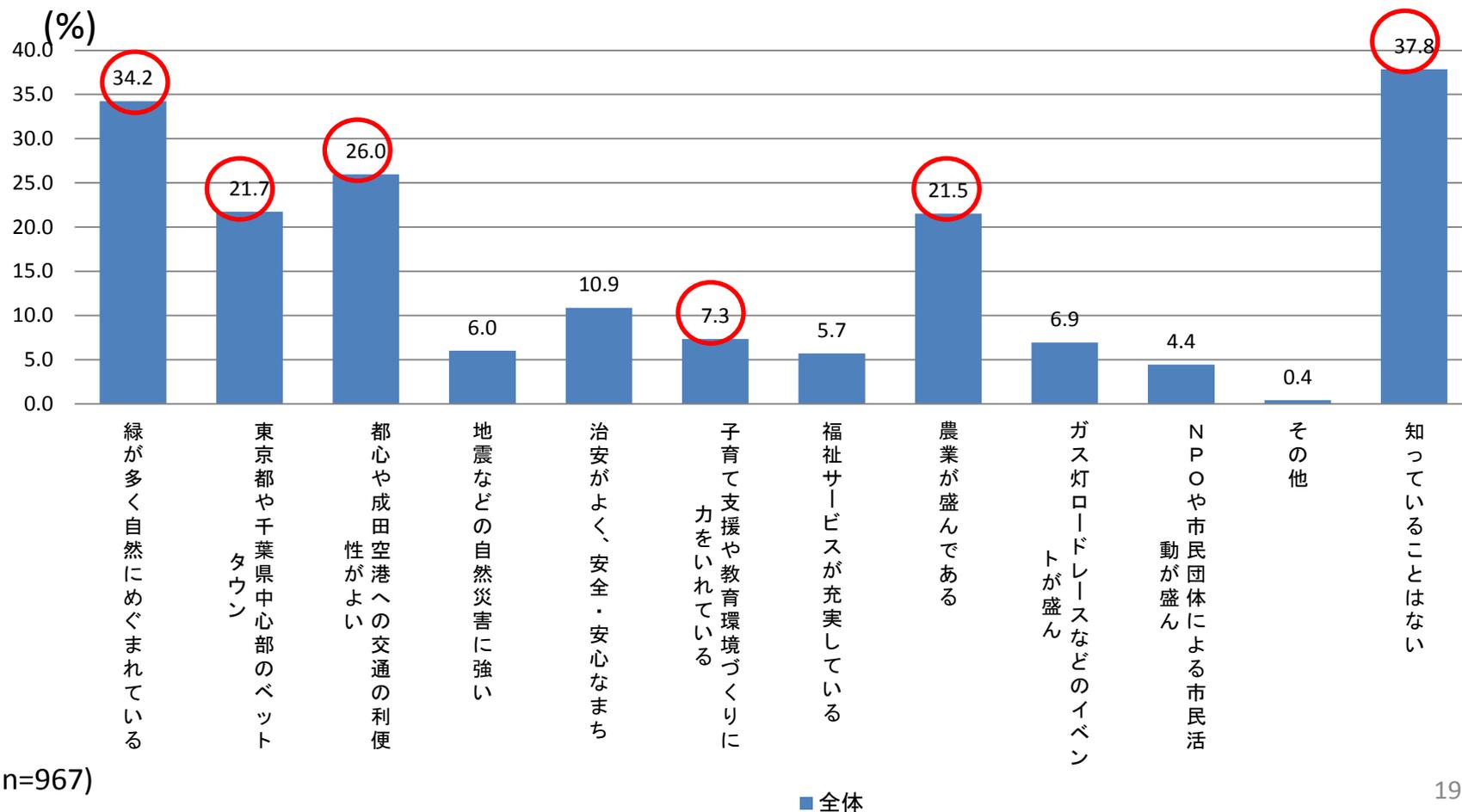
四街道市については、25歳～39歳の既婚女性の6.3%が「子育てによさそう」と感じているにとどまっている。



四街道市についての理解度

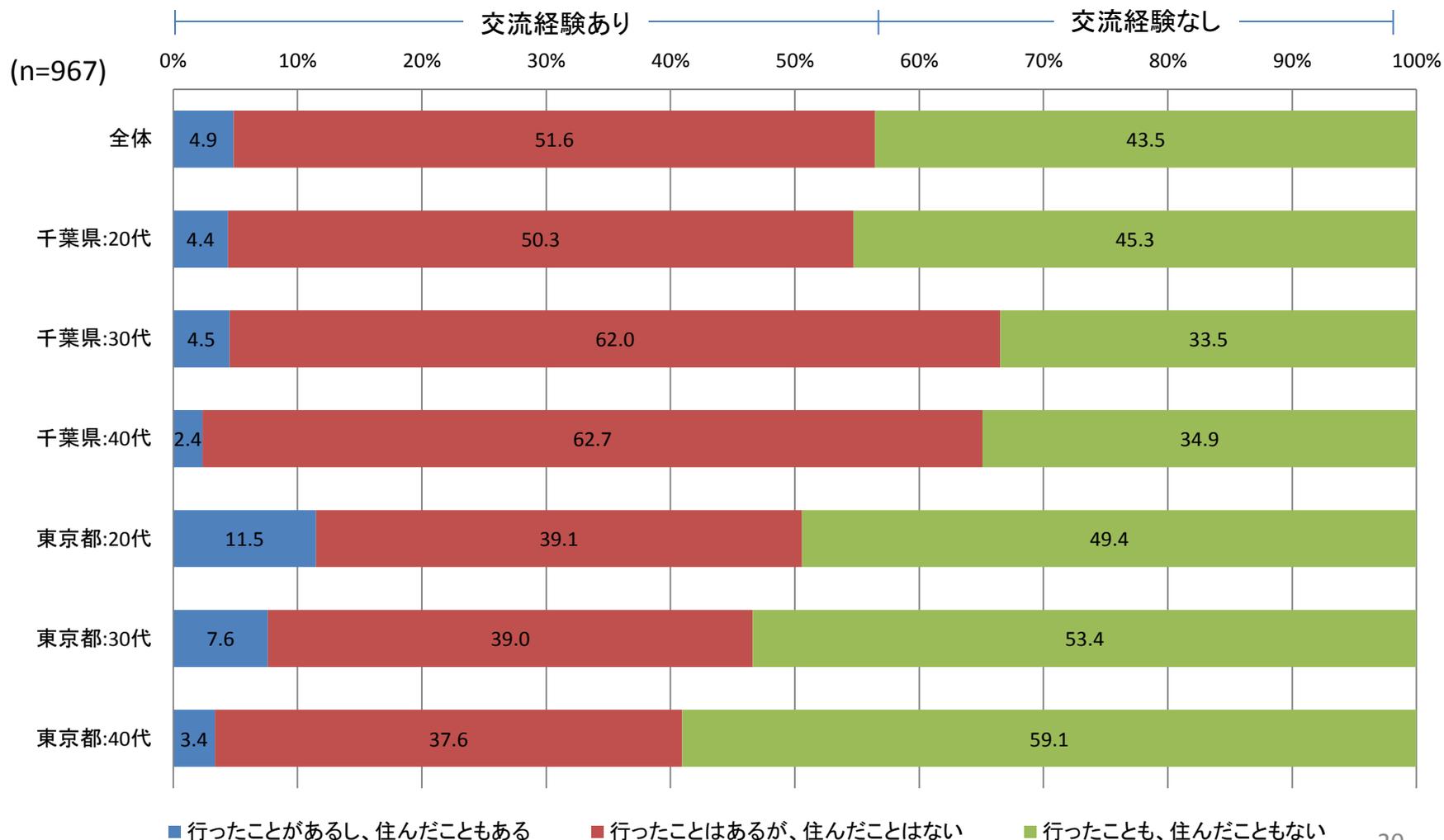
四街道市について知っていることは、「緑が多く自然に恵まれている」が約34%ともっとも高い。また、26%の人が「交通の利便性がよい」ことを知っており、約22%の人が「ベットタウン」「農業が盛ん」であることを理解している。一方で、「子育て支援や教育環境づくりに力を入れている」ことについては、全体で7.3%、県内でも6%の理解にとどまっている。

約38%の人たちが、四街道市について「知っていることはない」としている点も課題である。



四街道市との交流経験(地域別、年代別)

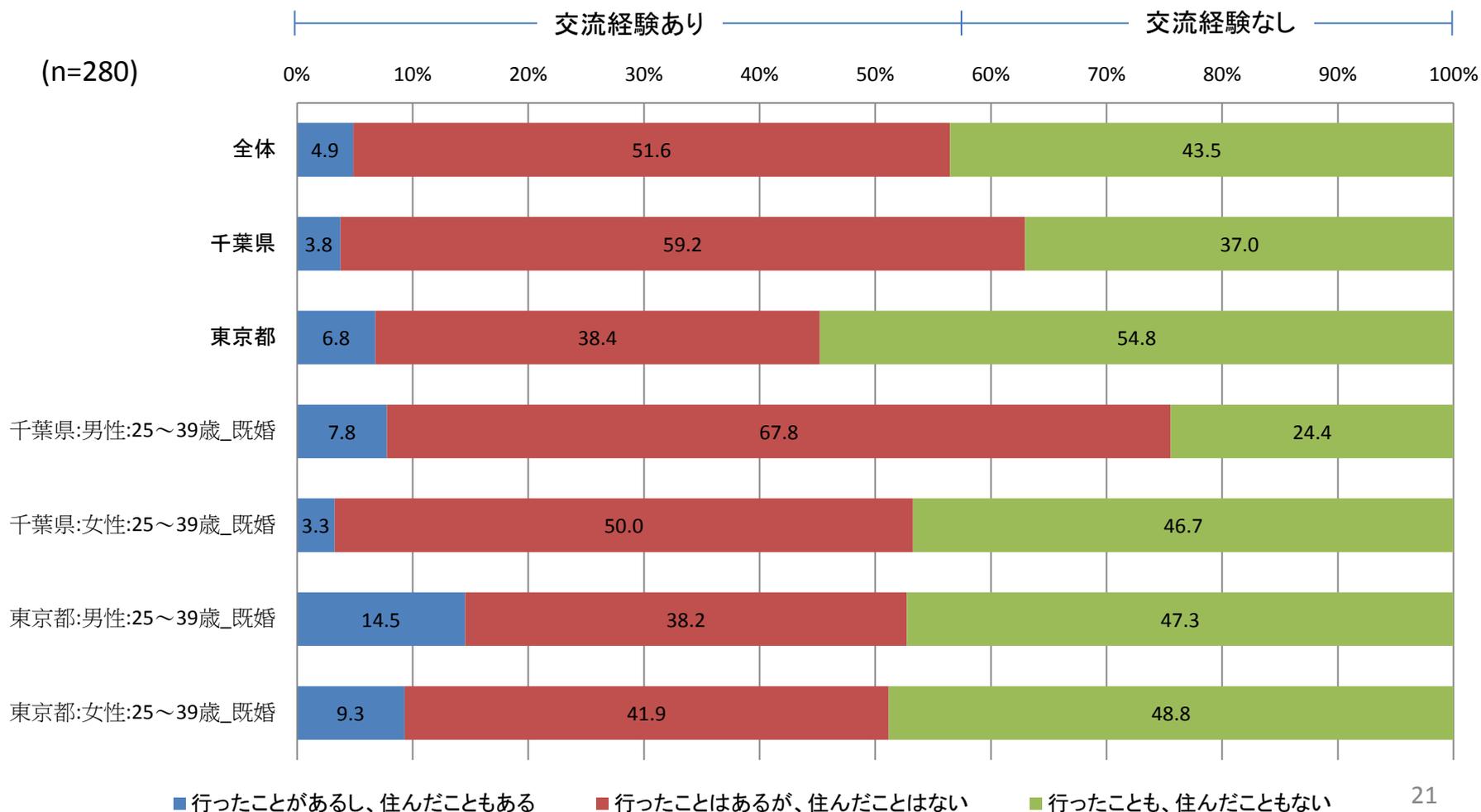
四街道市を知っている人における本市との交流については、行ったこと又は住んだことがある人は、県内の30代、40代で約65%である。それに対し、東京都の20代、30代では約45%であるが、40代は41%と年代が上がるほど交流経験は低くなる傾向にある。



四街道市との交流経験(ターゲット年齢)

四街道市を知っている25歳から39歳の既婚者の交流経験については、全体で56.5%(前回調査57.5%)、千葉県居住者では63.0%(同65.2%)の人が行ったこと又は住んだことがあると回答しており、ほぼ横ばいである。

特に千葉県の25歳から39歳既婚男性の交流経験率は75.6%と際立って高い結果となった。

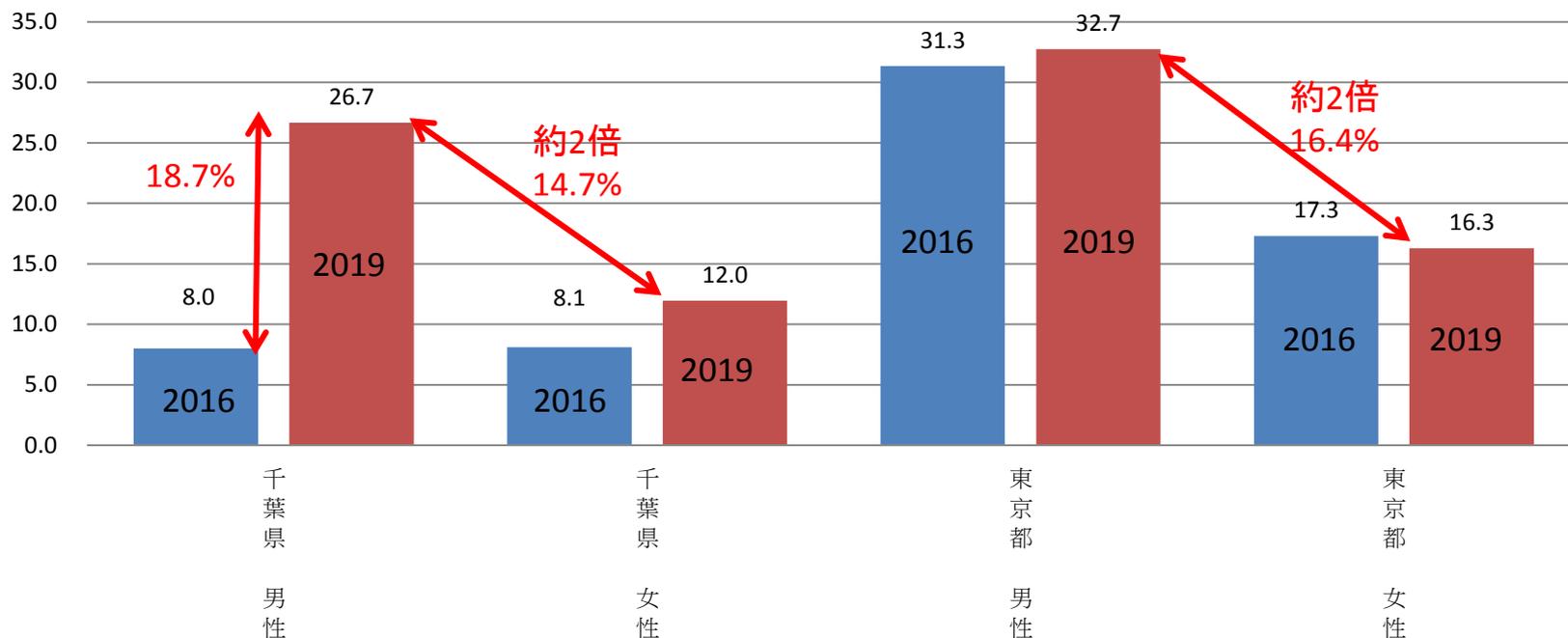


四街道市に対する居住意向(ターゲット年齢) 前回調査との比較

居住意向について前回調査と比較すると、千葉県ターゲット年齢では男女とも伸長している結果となった。特にターゲット年齢男性が約19%の伸長となった。

また、前回同様に東京のターゲット年齢男性の居住意向が約33%と非常に高い。

千葉県、東京都とも、男性の居住意向が女性の約2倍である。



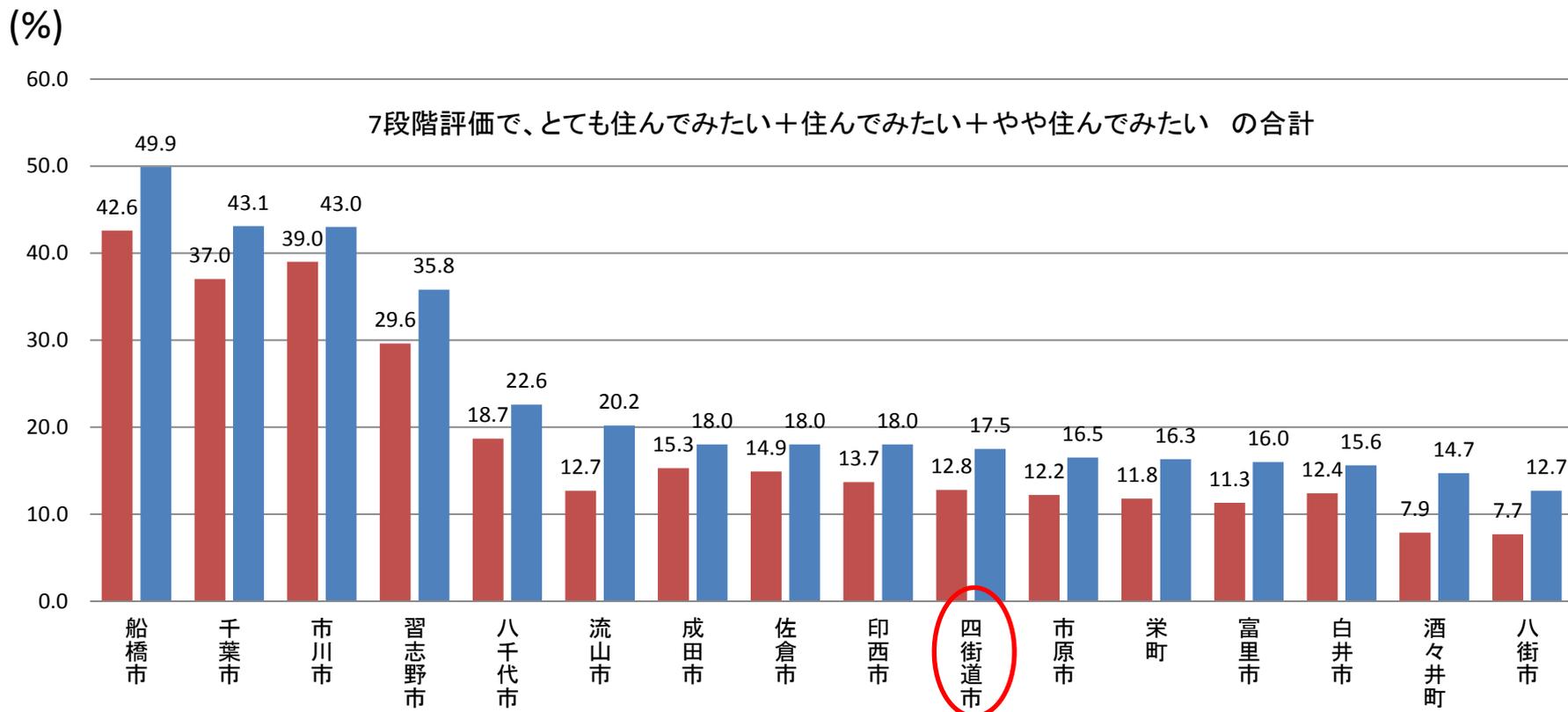
(2016: n=280)
(2019: n=268)

■ 2016年: 25-39歳: 既婚 ■ 2019年: 25-39歳: 既婚

居住意向比較(絶対評価、7段階評価中「住んでみたい」合計)

総武線沿線等と印旛管内の市町への居住意向については、総武線沿線で千葉以西の市への居住意向が高く、船橋市(49.9%)、千葉市(43.1%)、市川市(43.0%)、習志野市(35.8%)の4市が突出している。流山市が20.2%と前回調査と比べ、7.5%伸長した。

四街道市は前回調査から4.7%増の17.5%と、成田、佐倉、印西、市原等近隣各市とほぼ同等の評価となっている。前回調査と比較べ、各市町とも居住意向は上昇傾向にある。

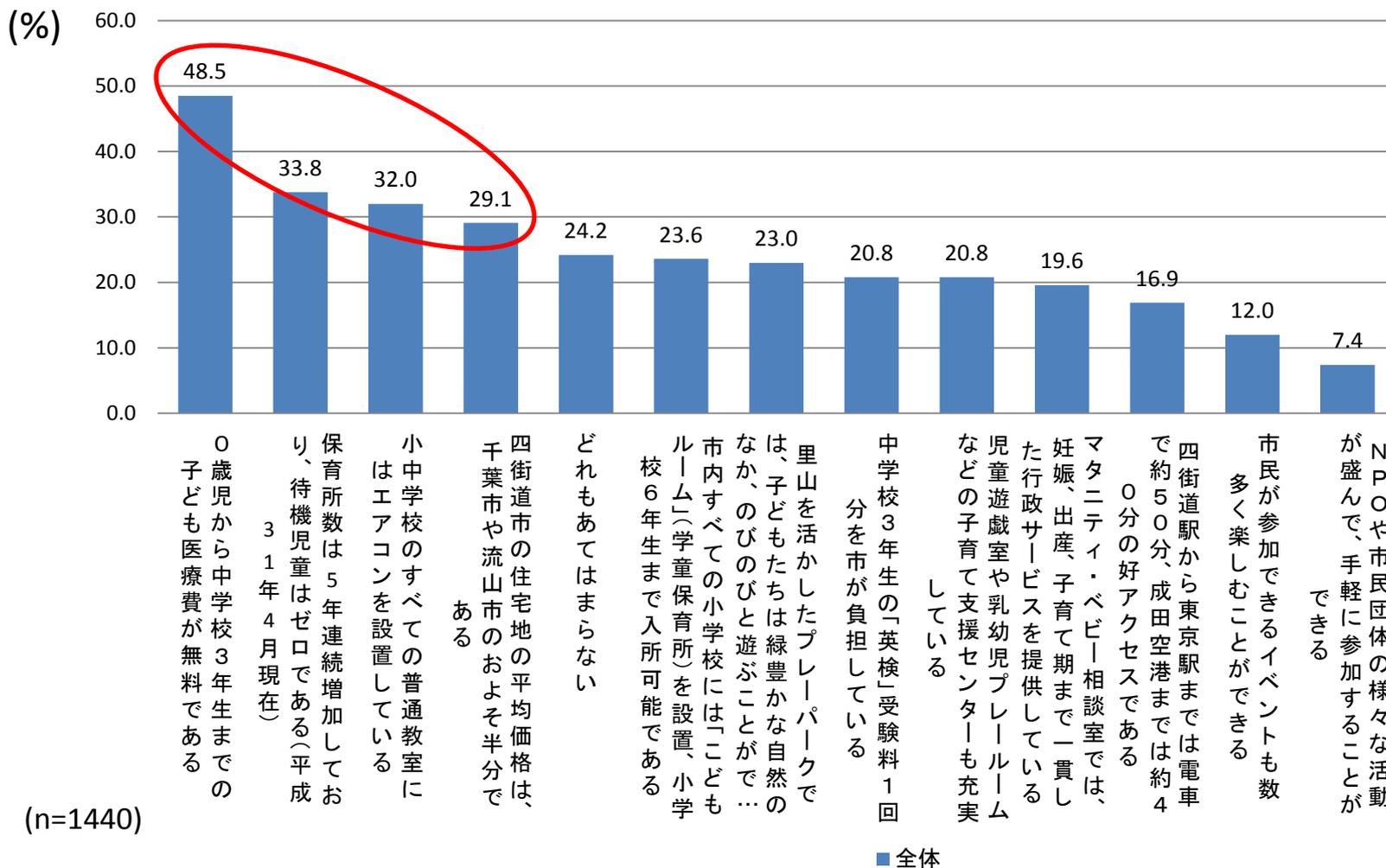


四街道市 2019:n=967 2016:n=924
(各市町とも、各市町名の認知者への質問)

■ 2016 ■ 2019

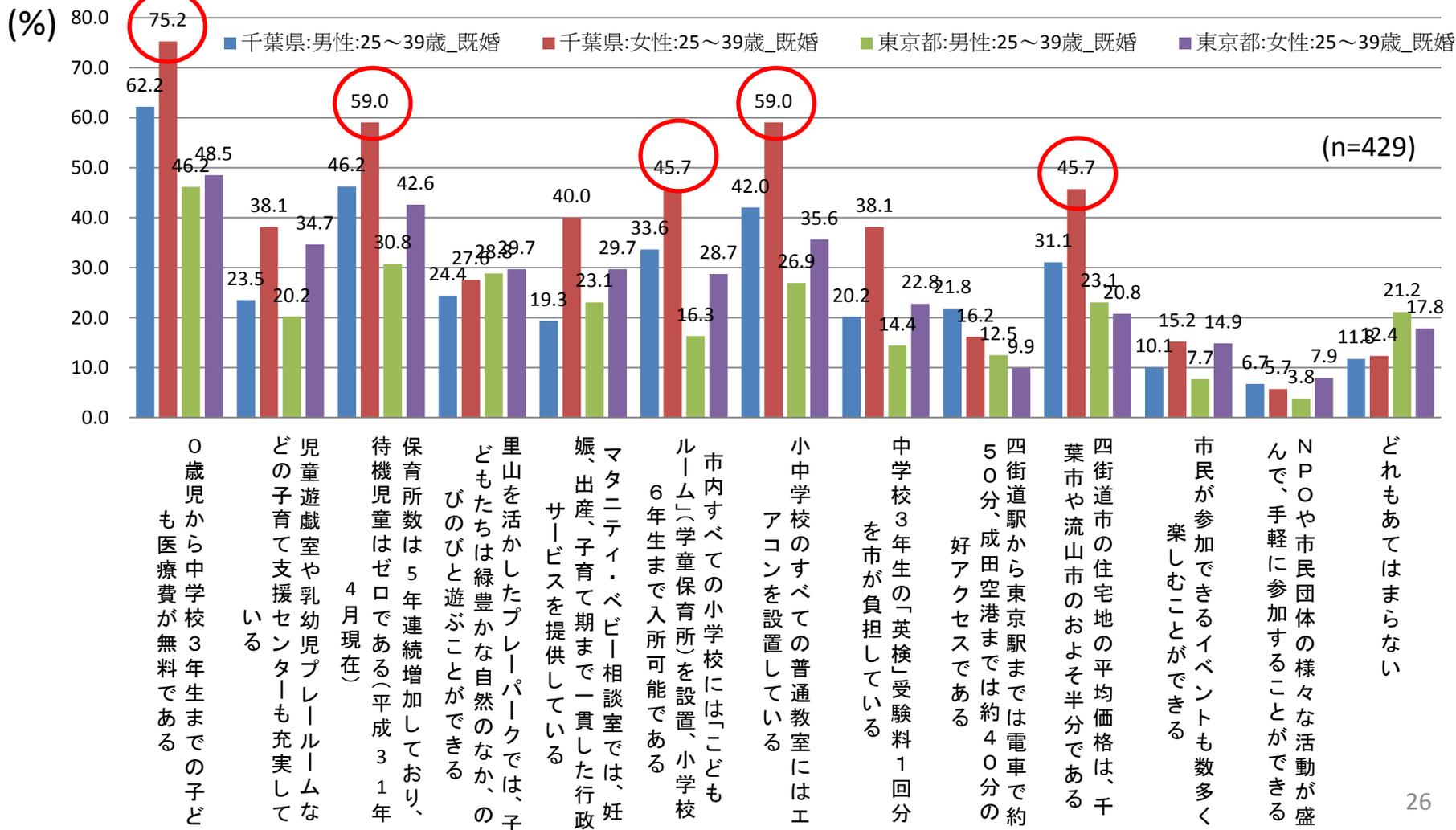
四街道市の魅力説明文の評価(全体)

四街道市の説明文を提示し、もっとも魅力に感じられたのは「0歳児から中学校3年生までの医療費無料」であり、50%弱の人が魅力と感じた。今回調査から新たに説明文に加えた「待機児童ゼロ」「住宅地の平均価格」に関する評価も高かった。また、「小中学校普通教室エアコン設置」も32%の人が魅力と感じており、子育て支援、教育施策への評価が高い結果となった。



四街道市の魅力説明文の評価(ターゲット年齢)

「子ども医療費無料」は、25歳から39歳の千葉県既婚女性からもっとも評価され、75%強が魅力だと感じている。千葉県居住の同年齢女性は、「待機児童ゼロ」、「学童保育所」、「小中学校のエアコン設置」、「住宅価格」についても魅力と感じている。千葉県居住の男性についても同様の傾向である。東京都居住の男女も魅力を感じる項目は同様であるが、全体的に評価は低めである。



自分の街に対する愛着度 — 調査概要

千葉県(四街道市外)及び東京都居住者に対する調査概要

調査期間: 令和元年8月1日～8月31日

調査手法: ウェブサイトによるアンケート調査

調査対象: 調査パネルに基づいた、調査対象エリアに居住する20歳～49歳、未婚／既婚、男性／女性

調査エリア: 千葉県内7市(千葉市、市原市、習志野市、船橋市、佐倉市、八千代市、市川市)、東京都内7区(千代田区、中央区、港区、台東区、江東区、江戸川区、文京区)

回答数: 1,440(千葉県、東京都、各720)

<参考>四街道市民に対する調査概要

調査期間: 令和元年9月15日～9月30日

調査手法: 市政だよりアンケート募集記事を掲載し、ハガキによる回答

調査対象: 四街道市民、対象特定なし

回答数: 376(うち40代までの回答104)

注意: 回収率向上のため、回答者には抽選による賞品を提供したため、回答には若干のバイアスがあることが想定される。

(注)

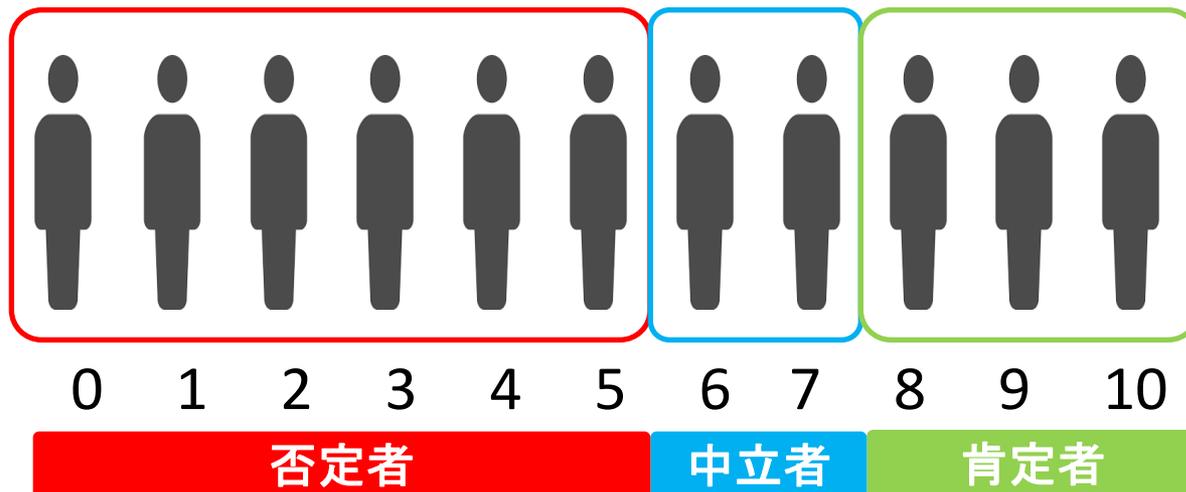
四街道市民を対象とした調査結果については、千葉県(四街道市外)及び東京都居住者に対する調査とは、手法の異なる別調査であるため、その結果分析については、<参考>扱いとしたい。

居住する街に対する愛着度 — 評価方法(指数)に関する説明

以下ページで示す、街への愛着度に関する4つの質問(好意、推奨意欲、参加意欲、感謝)では、対象者に各11段階の評価を行ってもらい、このうち

- 0点～5点の評価をした者を「否定者」
- 6～7点の評価をした者を「中立者」
- 8～10点の評価をした者を「肯定者」

と定義し、その割合を算出、肯定者含有率(8～10点と評価した人の割合、%)から否定者含有率(0～5点と評価した人の割合、%)を差し引いた結果(%)をそれぞれの指数とした(下図参照)。これら指数算出の方法は、NPS(Net Promoter Score)の手法を参考とした。

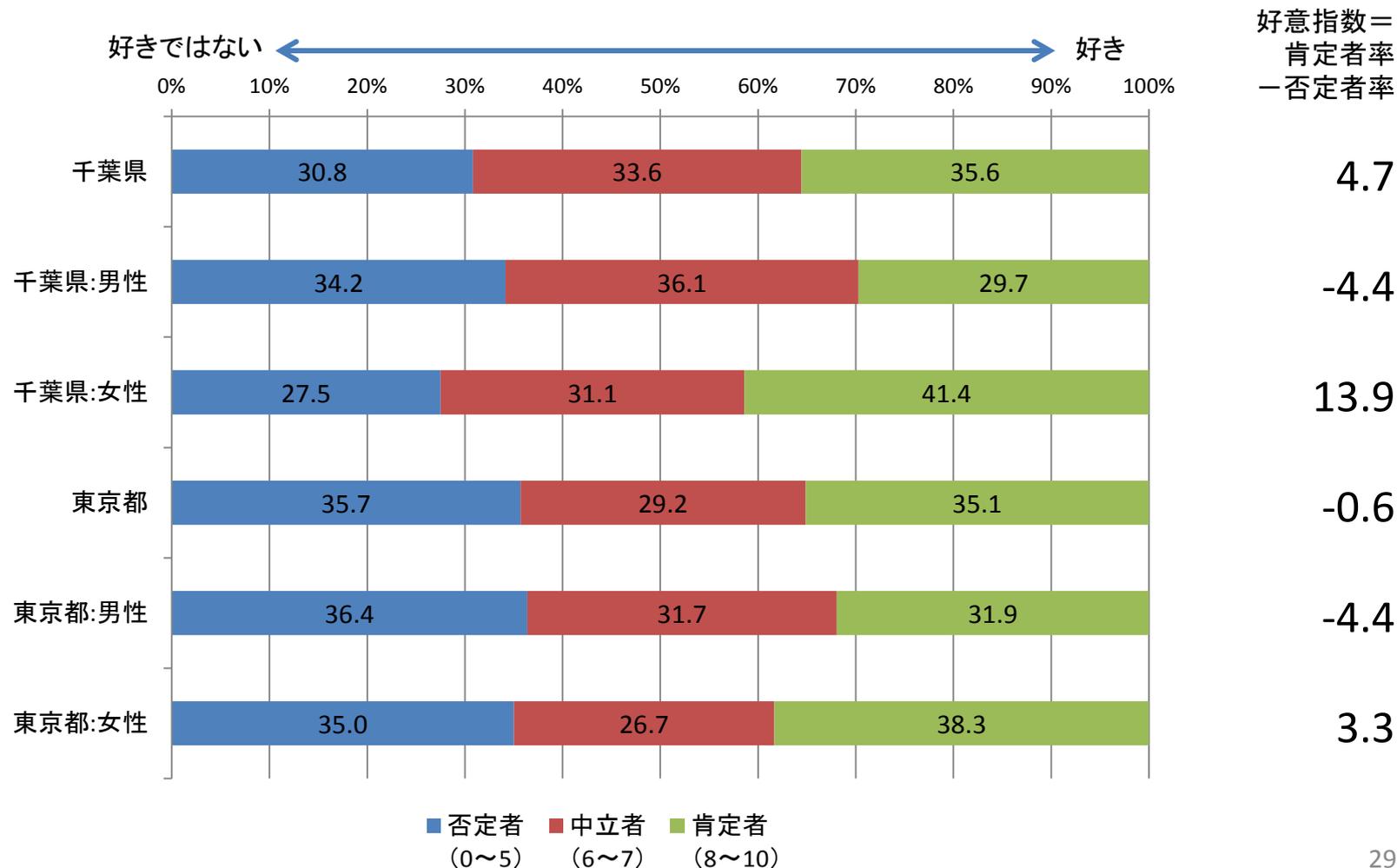


$$\text{指数} = \text{肯定者含有率}(\%) - \text{否定者含有率}(\%)$$

注)一般的なNPSでは、0～6点と評価した者を否定者に、7～8点と評価した者を中立者に、9～10点と評価した者を肯定者として定義している場合が多い。

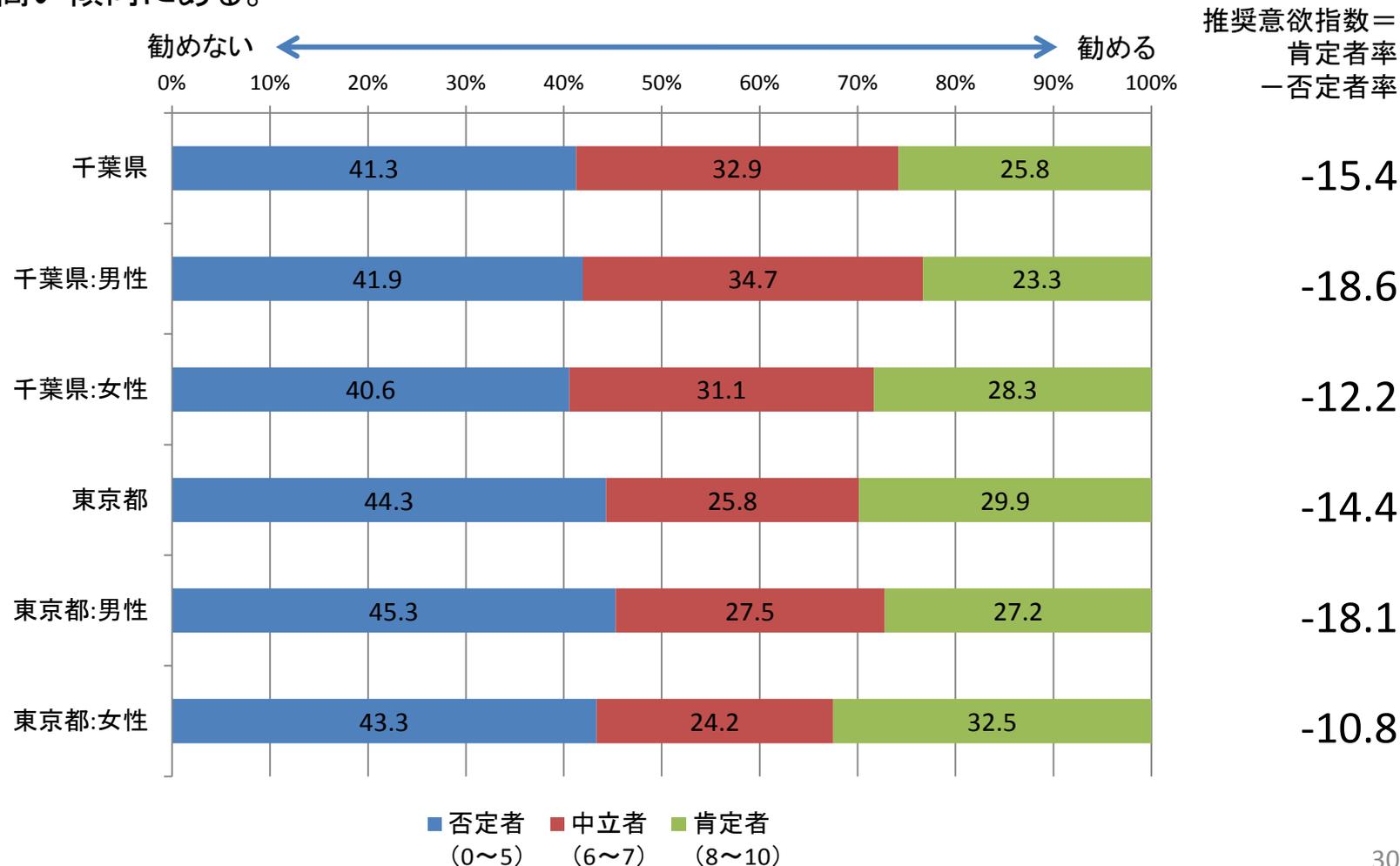
自分の街に対する愛着度 — 好意指数

「現在住んでいる市や区をどの程度好きか」という質問に対して、千葉県民(7市)の方が東京都民(7区)よりも住んでいる街への好意度が高い。また、千葉、東京とも男性より女性の街への好意度が高く、特に千葉県女性の住んでいる街に対する好意度が高い。



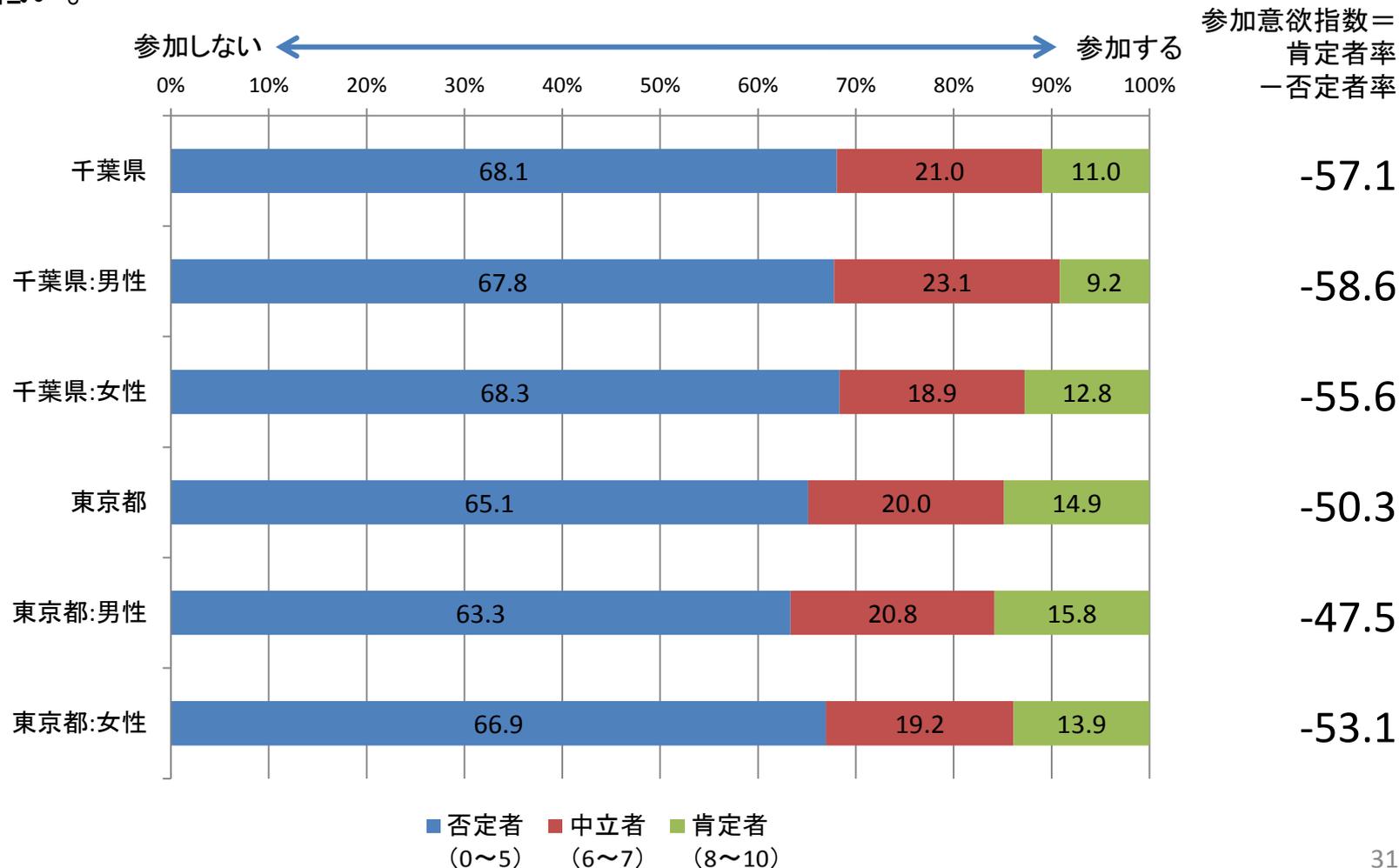
自分の街に対する愛着度 — 推奨意欲指数

「現在住んでいる市や区を、主な生活をする場所として、どの程度、親類や友人・知人といった他の人にお勧めしますか」という質問に対しては、千葉県民(7市)、東京都民(7区)とも大きな差はなかった。好意指数(前頁参照)同様、千葉県民、東京都民とも、男性に比べ、女性の推奨意欲が高い傾向にある。



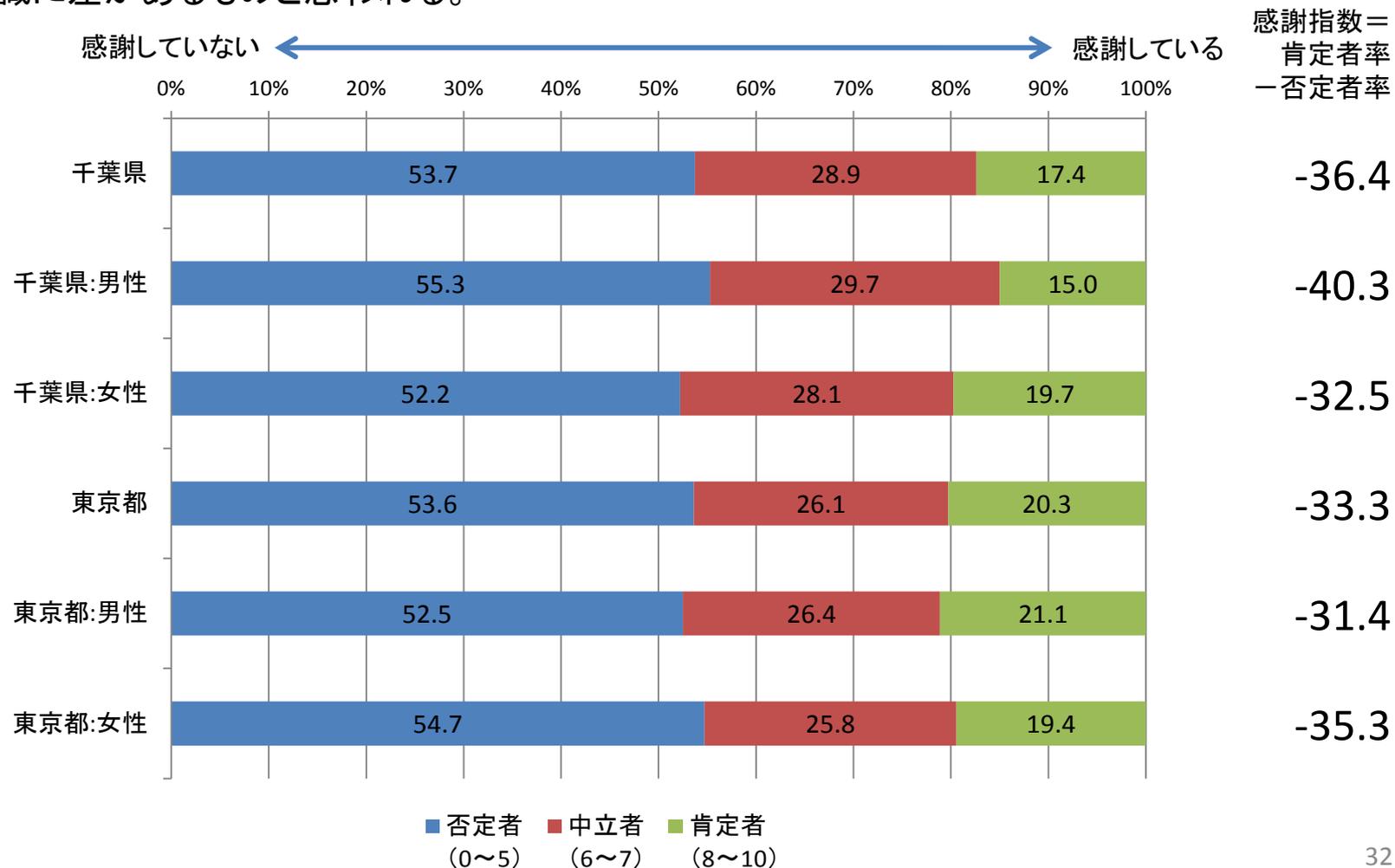
自分の街に対する愛着度 — 参加意欲指数

「現在住んでいる市や区の出来事(イベントなど)や地域活動に対して、どの程度参加する気持ちがありますか」という質問では、東京都民(7区)の方が千葉県民(7市)に比べて、参加意欲が高い。特に東京都男性の参加意欲が相対的に高めである。ただし、参加意欲そのものが全般的に低い。



自分の街に対する愛着度 — 感謝指数

「現在住んでいる市や区に住む人々に対して、どの程度感謝する気持ちがありますか」という質問に対しては、東京都民(7区)の方が千葉県民(7市)に比べ、住民への感謝の気持ちが高い。特に千葉県男性の住民への感謝度が低めであり、東京都男性との開きが約9ポイントあり、地元意識に差があるものと思われる。



<参考>四街道市に対する愛着度 — 好意、推奨意欲、参加意欲、感謝各指数

前ページまでの千葉県民、東京都民への調査とは調査手法が異なるため、直接的な比較はできないものの、四街道市民の市への好意、市の推奨意欲、市の活動への参加意欲、住民への感謝の気持ちとも非常に高い水準である。

※市広報誌を活用して回答募集を行ったため、市への好意や関心が高い人々からの回答が集まりやすい傾向はあったものと考えられるため、<参考>データとした。

